高崎市文化財調査報告書第345集

上中居前屋敷遺跡２

－高前幹線事業に伴う発掘調査－

２０１５

高崎市教育委員会

序

高崎市は、北西に榛名山、北東に赤城山、西に妙義山などの上毛三山を望む群馬県の南西部に位置しております。平成18年から21年にかけて、周辺の6町村と合併を行い、人口37万5千人を擁する都市となりました。こうして誕生した新たなる高崎市は、平成23年4月1日より中核市へ移行しました。

本書で報告する上中居前屋敷遺跡は、高前幹線事業に伴う埋蔵文化財発掘調査であり、平成19年度に調査が開始され、平成26年度で終了となりました。これらの調査の結果、中近世の屋敷跡や寺院を構成していたと考えられる堀、平安時代の水田跡などが発見されました。この水田跡は、1108年に起きた浅間山の噴火による軽石に埋没しているため、水田耕作が行われた時期が正確に推測できる貴重な資料となっています。また、下中居町・下之城町にかけて広い範囲で水田経営が及んでいたことがわかりました。

最後になりましたが、発掘調査報告書の刊行にあたりご協力・ご指導をいただきました関係諸機関ならびに地元関係者の皆様に心から感謝を申し上げますとともに、発掘調査や整理作業に従事した作業員の方々の労をねぎらい、序といたします。

平成27年3月

高崎市教育委員会

教育長　飯野　眞幸

例言

1．本書は、高前幹線事業に伴って平成21年度・25年度および平成26年度に実施した遺跡調査の発掘調査報告書である。
2．本遺跡の所在地は、高崎市下中居町21－6（1区）・22－4（2区）・21－5（3区）・457－2（4区）、上中居町877－11（5区）である。
3．発掘調査および整理は、高崎市教育委員会文化財保護課が行った。
4．本遺跡は、高崎市遺跡番号「447・563・595」に該当する。
5．調査組織は次のとおりである。
　平成21年度：（事務局）田口一郎　須田奈保子　山田いづみ
　　（調査担当）黒田晃　明石雅夫
　平成25年度：（事務局）田口一郎　神澤久幸　山田いづみ
　　（調査・整理担当）大野義人　岡崎裕子　手島芙実子
　平成26年度：（事務局）田口一郎　針井修　加藤志津代
　　（調査・整理担当）大野義人
6．発掘調査期間は以下のとおりである。
　平成21年度（1・2区）　平成22年1月25日～平成22年2月12日
　平成25年度（3区）　　平成26年2月25日～平成26年3月3日
　平成26年度（4・5区）　平成26年4月28日～平成26年5月23日
7．整理作業期間は、平成26年4月28日～平成27年3月31日である。
8．本書の執筆・編集は大野が行った。
9．遺構図面作製は発掘作業員および大野が行い、デジタルトレース作業は大野が行った。遺物整理・実測作業は整理作業員および大野が行い、デジタルトレース作業は株式会社シン技術コンサルに委託した。
10．遺構の写真撮影は黒田・大野が行った。遺物の写真撮影は株式会社シン技術コンサルに委託した。
11．本事業に際し、発掘調査における表土の掘削・埋填を株式会社井ノ上が行った。
12．本遺跡の出土遺物・記録類は高崎市教育委員会文化財保護課で保管している。

凡例

・本書に使用した地図は、高崎市都市計画図（1／2500）、および国土交通省国土地理院発行の1／25,000の地形図『高崎』である。
・本書中に使用した座標値は、平面直角座標第Ⅸ系国家座標（世界測地系）を用いており、方位はその座標北を示す。
・土層および遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』を使用した。
・本報告書で用いた縮尺は原則として以下のとおりである。例外については各図版のスケールを参照されたい。
　調査区全体図：1／100および1／200、遺構図：1／60、遺物図：1／3
・遺物観察表に用いた単位はｃｍであり、（　）で示した数値は残存部の法量である。
・本書で使用した火山灰の略称については、以下のとおりである。
　Ａｓ－Ａ：浅間Ａ軽石（1783年（天明3年）の浅間山噴火に由来）
　Ａｓ－Ｂ：浅間Ｂ軽石（1108年（天仁元年）の浅間山噴火に由来）
・断面図におけるＡｓ－Ｂの一次堆積層には、トーン処理を施した。

目次

序
例言・凡例
目次・挿図目次・表目次
第１章　調査に至る経緯
　第１節　調査に至る経緯……1
　第２節　発掘調査の方法・経過……1
第２章　遺跡の立地と環境
　第１節　遺跡の立地・地理的環境……1
　第２節　周辺の遺跡・歴史的環境……2
　第３節　周辺遺跡の過年度調査成果……4
第３章　発掘調査の方法
　第１節　調査区の設定……11
　第２節　調査方法・記録方法……11
第４章　発掘調査の記録
　第１節　遺跡の概要……11
　第２節　基本層序……11
　第３節　発掘調査成果……13
第５章　まとめ
　第１節　遺跡の全容……24
　第２節　古墳時代の遺構群……24
　第３節　Ｂ下水田と条里制地割……24
　第４節　中世の寺院関連遺構……28
　第５節　中近世の屋敷跡（下中居新井屋敷）……31
　第６節　今後の課題……31

写真図版
抄録・奥付

挿図目次

第１図　上中居前屋敷遺跡２周辺遺跡…… 5
第２図　上中居前屋敷遺跡２調査区位置図…… 10
第３図　基本土層図…… 12
第４図　１・２・３区全体図…… 14
第５図　３区平面図…… 15
第６図　３区断面図・出土遺物…… 16
第７図　４区平面図…… 18
第８図　４区１～３号溝、１号土坑平面図・断面図・出土遺物…… 19
第９図　４区１号井戸、１～８号ピット平面図・断面図・出土遺物…… 20
第10図　５区平面図・断面図 …… 22
第11図　５区出土遺物 …… 23
第12図　高前幹線関連遺跡全体図 …… 25
第13図　古墳時代の遺構分布状況 …… 27
第14図　Ｂ下水田および条里制地割 …… 29
第15図　中世寺院関連の遺構 …… 30
第16図　下中居新井屋敷関連の遺構 …… 32

表目次

第１表　周辺遺跡一覧表①…… 6
第２表　周辺遺跡一覧表②…… 7
第３表　周辺遺跡一覧表③…… 8
第４表　周辺遺跡一覧表④…… 9
第５表　出土遺物観察表…… 23

第１章　調査に至る経緯

第１節　調査に至る経緯

本発掘調査は、都市計画道路３・２・１号高前幹線事業に伴う埋蔵文化財発掘調査である。平成18年度に高崎市都市整備部都市施設課より埋蔵文化財の照会があり、これに対し文化財保護課は事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地に該当する旨を報告した。その後都市施設課と文化財保護課で文化財保護の協議を行ったが、事業計画の変更は困難であるとの回答を得たため、平成19年度から記録保存を目的とした文化財発掘調査を開始した。本事業に関する発掘調査は、住居の移転等の関係もあり調査対象地を細かく分割して調査せざるを得ず、次年度以降も継続して発掘調査が行われ、平成26年度で終了となった。

本報告書で報告するのは平成21・25・26年度の発掘調査成果であり、平成21・25年度については既に報告書刊行済みの『下中居天神裏遺跡　第１・２次調査』（高崎市2012）および『上中居前屋敷遺跡』（高崎市2014）において未報告であった箇所を掲載している。

第２節　発掘調査の方法・経過

平成21年度の発掘調査は、上中居前屋敷遺跡で報告された２区を主体として調査を行っていたが、緊急的に発掘調査を行う必要が生じた箇所があったため、小規模な発掘調査を行った（１・２区）。

平成25年度の発掘調査は、上中居前屋敷遺跡で報告された４区を主体として調査を行っていたが、緊急的に発掘調査を行う必要が生じた箇所があったため、小規模な発掘調査を行った（３区）。

平成26年度は、これまで家屋の解体や看板の撤去が滞っていたため保留となっていた箇所が調査可能な状態となったため、小規模な発掘調査を行った（４・５区）。

発掘調査は、いずれの調査区も遺構検出面までは重機を使用して掘削を行った。４区においては調査区隣接地に排土置き場が確保できない状況が生じたため、遠方の道路予定地内までの搬出作業を並行して行った。遺構確認および遺構掘削は人力で行い、遺構平面図・断面図や写真撮影などの各種記録作業については担当職員および作業員が行った。調査終了後は重機による埋戻し作業を行った。

第２章　遺跡の立地と環境

第１節　遺跡の立地・地理的環境

上中居前屋敷遺跡２は、関東平野の北端部にあたる台地上に立地している。この台地は榛名山の南東側に展開しており、北西から南東にかけて緩やかに傾斜し、榛名山麓部湧水地帯などを水源とする多数の河川が南東方向へ流下している。この河川のうちの一つである井野川は、谷底平野から成る低地帯を形成しており、これを境に東側を前橋台地、西側を高崎台地と呼称している。榛名山東南麓部には、榛名山の火山活動によって形成された相馬ヶ原扇状地や白川扇状地が広がり、標高120ｍ付近で南方の高崎台地へと接続する。井野川の南方を流れる烏川は浅間隠山などを水源とし、碓氷川・鏑川などと合流しながら埼玉県との県境付近で利根川へと流れ着く。本遺跡は、この井野川と烏川の間に形成されている微高地と低地が入り混じるエリアに立地している。

上中居前屋敷遺跡２は、北西から南東方向へ展開する微高地とその南方の低地にかけて調査対象地が及んでいる。周辺には長野堰からの流れをくむ水路が複数開削されており、このうち矢中堰が調査区の北部において南東方向へ流下している。

第２節　周辺の遺跡・歴史的環境

上中居前屋敷遺跡２周辺では、前橋泥流が厚く堆積しているため旧石器時代の遺構・遺物は確認されておらず、活動の痕跡が認められるのは縄文時代中期頃からである。確認数こそ少ないものの、本遺跡の北東に形成された微高地上および縁辺部に該当時期の遺構・遺物が散見される。微高地上では中居町一丁目遺跡３、縁辺部では下中居条里Ⅲ遺跡において縄文時代中期後半頃の竪穴住居跡が検出されている。上中居遺跡群では縄文中期後半から後期にかけての集石遺構や土坑、被熱痕跡などが検出され、遺構に伴わないものの石棒や土偶など祭具の出土もみられる。なお、この微高地周辺以外では、さらに北方の井野川右岸にあたる宿大類遺跡群Ⅵ～Ⅷや情報団地遺跡Ⅰ・Ⅱなど、南方の烏川左岸にあたる下佐野Ⅰ地区・寺前地区、下佐野Ⅱ地区、倉賀野万福寺Ⅰ・Ⅱ遺跡などで同じく縄文時代中期後半～後期頃の遺構が確認されている。ちなみに宿大類遺跡群Ⅲ（山鳥・天神遺跡）では縄文時代前期の遺構が確認されており、井野川右岸エリアでは一足早く縄文時代の文化が根付いていた可能性がある。

本遺跡周辺では縄文時代晩期～弥生時代前期の遺跡は未確認であり、弥生時代中期後半頃から活動が再開されたようであるが遺跡数は少ない。微高地上は特に希薄で、高関村前Ⅱ遺跡で中期末～後期初頭にかけての住居が数軒確認されたのみであり、どちらかというと微高地縁辺部に遺構・遺物の存在が認められる。高関堰村遺跡では中期末頃の溝が確認されており、環濠を有する集落が存在する可能性を示唆している。東町Ⅲ・Ⅳ遺跡では北西―南東方向の溝が数条検出されたほか、Ａｓ－Ｃ軽石に埋没した水田跡が確認されている。また、明確な遺構は確認されていないが、高崎競馬場遺跡や城南小学校庭弥生遺跡などで弥生時代中期末～後期初頭の土器が出土しており、低地においても活動の痕跡が認められる。本遺跡北東にあたる井野川流域沿いでは、弥生時代後期を中心とした集落域や墓域が形成されている状況がうかがえる。井野川左岸エリアでは矢島竹之内遺跡、矢島町薬師遺跡、鈴ノ宮遺跡などが、井野川右岸エリアでは宿大類遺跡群Ⅵ・Ⅷ、情報団地Ⅰ・Ⅱ遺跡、南大類東沖・稲荷遺跡などで竪穴住居跡や方形周溝墓などが展開していく。中でも矢島竹之内遺跡は、中期末～後期初頭と近辺では最も古く、赤城山南麓や東北南部・東海系土器の出土が目立つ短期的な集落である。井野川流域に弥生集落が展開する画期となった重要な遺跡であるといえよう。

古墳時代に入ると遺跡数が飛躍的に増加し、各地で古墳が築造されるとともに微高地上にも集落が展開するようになる。まず古墳の築造状況を通時的に概観する。４世紀前半頃、第１図の範囲外にはなるが、井野川左岸に全長 95 ｍの前方後方墳である元島名将軍塚古墳が築造され、当地域に古墳文化が開花する。やや時期が下って４世紀後半になると、本遺跡の東方に直径約 10 ｍの円墳である柴崎蟹沢古墳が築造される。小規模な円墳ではあるが、副葬品として三角縁神獣鏡２面、内行花文鏡２面の合計４面の青銅鏡を所有している。この三角縁神獣鏡のうち１面の銘文には「□始元年」と記されており、同型鏡の情報を基に「正始元年」と補読されている。同型鏡は兵庫県森尾古墳、山口県竹島御家老屋敷古墳、近年の整理作業により奈良県桜井茶臼山古墳からの出土が確認されている。高崎市内における三角縁神獣鏡の出土はこの２面のみであり、墳丘規模こそ小さいが、本墳には複数の鏡を所有できるほどの有力者が埋葬されたと考えられる。

５世紀頃になると、粕沢川沿いの左岸にあたる微高地上に全長 171.5 ｍの大型前方後円墳である浅間山古墳が築造され、その規模から当地域の最有力者が埋葬されていると考えられる。浅間山古墳の近辺には、同じく前方後円墳である大鶴巻古墳・小鶴巻古墳が築造されている。浅間山古墳と大鶴巻古墳は築造時期が近いと考えられており、小鶴巻古墳は両古墳の築造からやや期間を置いた５世紀後半の築造とされている。これらの前方後円墳周辺では、対岸である粕沢川右岸エリアに庚申塚古墳・大山古墳・茶臼山古墳などの大型円墳が、倉賀野万福寺遺跡において５世紀後半を中心とした古墳群が確認されており、浅間山古墳・大鶴巻古墳・小鶴巻古墳は、これらの倉賀野古墳群を統べる首長墓であったと推定される。

これとほぼ同時期に、烏川左岸段丘上に佐野古墳群が形成される。その始まりは長者屋敷天王山古墳が

築造された４世紀末頃からであり、その後７世紀初頭頃まで継続する。下佐野遺跡Ⅰ地区・寺前地区や下佐野遺跡Ⅱ地区の調査では、集落跡とともにそれまで知られていなかった古墳や古墳時代前期に属する周溝墓なども確認されている。古墳群形成の最終期にあたる６世紀後半～７世紀初頭を代表する古墳として、全長60ｍを超える前方後円墳である漆山古墳や直径44ｍの大型円墳である蔵王塚古墳が挙げられる。特に漆山古墳は当地域における最終期の前方後円墳であり、時期的・地理的にみても山ノ上碑や金井沢碑に刻まれた「佐野三家」との関連性も考慮すべき重要な古墳である。その後は明確な有力古墳は築造されないが、倉賀野古墳群の東方に安楽寺古墳や一本杉古墳などの７世紀中葉～末にかけて築造された古墳が存在する。特に安楽寺古墳は巨大な截石を用いて石室を構築しており、さらに玄室構造が石棺状を呈するなどの特殊な属性を有しており、後の郡司階層に匹敵するほどの人物が埋葬されていると考えられている。

本遺跡周辺には古墳の分布は少ないが、西方の低地域にかつて100ｍを超える規模の前方後円墳である越後塚古墳が存在した。現在は削平されてしまい詳細な情報はないが、南北主軸であることから竪穴系の主体部を有していたと考えられ、５世紀頃の築造であると推定されている。

次に微高地上を中心として集落の展開を見ていく。遺構の分布が濃密なのは上中居遺跡群、上中居辻薬師Ⅱ遺跡、中居町一丁目遺跡１～３などであり、古墳時代前期および中期後半を中心とした集落が営まれる。上中居辻薬師Ⅱ遺跡・上中居遺跡群・中居町一丁目遺跡では、古墳時代前期に所属する方形周溝墓などもみられる。集落の展開をみると、上中居遺跡群の中央部付近にある遺構の空白地帯を境として東西に集落域が想定され、おおむね東側に古墳時代前期、西側に中期後半頃の集落が展開する。この他にも上中居辻薬師遺跡３や高関・堰村遺跡２においても前期・中期後半の竪穴住居跡が確認されている。また該当エリアでは北西―南東方向の溝が多数確認されている。これらの溝は古墳時代前期～中期のものが大多数であり、一部弥生時代の土器片を含む大型の幹線水路と想定される溝も存在する（上中居辻薬師Ⅱ遺跡、上中居辻薬師遺跡７次、上中居遺跡群）。今回報告する上中居前屋敷遺跡２で検出した古墳時代前期の溝も、これらの一端であると考えられる。なお、これらのうち上中居辻薬師遺跡５次で検出された古墳時代中期頃の溝から、浮彫式獣帯鏡と思われる破鏡が勾玉・管玉とともに出土している。集落域からは離れたエリアからの出土であり、祭祀行為が行われていた可能性もある。

後期になると遺構数が極端に減少する。ただし遺構分布域は中期後半の集落域と重複しており、高関村前Ⅱ・高関東沖・村前遺跡においては新たに集落が営まれることが確認されているため、活動領域が縮小されたということではないようである。古墳時代も終末期になると遺構の分布は限定的になり、上中居辻薬師遺跡３や中居町一丁目遺跡２で竪穴住居跡が数基確認されている。また、上中居岡西遺跡２、上中居宇名室遺跡においては当該時期の溝が開削されており、特に前者は幅６ｍを超える大型のもので、須恵器・土師器や石製模造品が出土している。両者に共通する特徴は、軸方向が東西南北を指向していることであり、それ以前までの地形に則した北西―南東方向の溝群とは明らかに異なる。このことは、古墳時代終末期に土地利用に対する意識に変化が現れたことを示しており、同時に地形に左右されない開発技術を有するようになったことも推察される。

平安時代に該当する遺跡も多数見受けられるが、分布域が若干異なる箇所も確認される。微高地上では古墳時代に集落の中心域であった上中居エリアからやや南東に下った柴崎エリアに中心域が移転しているようであり、柴崎遺跡群・南大類遺跡群、柴崎遺跡群（Ⅴ）、西浦・吹手西遺跡などで奈良時代から平安時代にかけての集落跡が確認されている。この微高地の北東および南西側の低地では水田の大規模な開発が行われており、Ｂ下水田が広く確認されている。本遺跡の南東にあたる下之城条里遺跡Ⅰ・Ⅲでは、条里制地割に基づいた水田経営が行われたことが明らかになっており、１町（約109ｍ）の間隔で水路を伴う大畦畔が構築されている。これと同様の状況が、南方の下之城村前遺跡Ⅱ～Ⅴ・７、下之城仲沖遺跡３・４などや、東方の矢中遺跡群Ⅱ～Ⅹなどでも確認されている。また、下之城村前遺跡７や下之城仲沖３遺跡などでは、条里制地割に該当するＢ下水田の大畦畔より下層において、ほぼ同位置・同方向の溝が走行

している様子が確認されており、Ｂ下水田経営以前から条里制地割が導入されていた可能性を示唆している。また、矢中遺跡群（Ⅶ）の調査では、溝の底面から物部私印が出土しており注目される。

中世以降になると、矢中堰に沿うように多数の城館・居館が築造される。矢中堰の南側に反町城、新堀の砦、新井屋敷、高尾屋敷、佐藤屋敷、福田屋敷などが、さらに南西には和田下之城が築城されており、いずれも 15 ～ 16 世紀頃に築造されたと考えられている。これらのうち反町城・新井屋敷については、それぞれ上中居辻薬師遺跡Ⅰ・Ⅱ、下中居天神裏遺跡１・２次の発掘調査において、堀を中心とした居館関連の遺構群が確認されている。本報告にも関連する新井屋敷は、高崎城の前身となる和田城に拠点を置いていた和田氏の傘下であった新井大学の居館と推定されている。新井屋敷の南東隣に築造された高尾屋敷は、新井大学とともに和田氏騎馬衆の一人である高尾佐渡守の居館とされ、当時の矢中堰周辺は和田氏配下の武士団が居を構えたエリアであったことがわかる。また、上中居前屋敷遺跡の発掘調査では、新井屋敷の北方にあたる箇所で 15 ～ 16 世紀を中心とした溝群などが確認された。これらの溝や井戸からは該当時期の瓦が多数出土しており、当時この場所に寺院が存在していたことが想定される。新井屋敷や反町城などの堀からは近世以降の遺物が出土することも多く、近現代までその痕跡を残していたと考えられる。これに対して上中居前屋敷遺跡の寺院跡は、出土遺物の状況から中世段階で埋没してしまったと考えられる。本遺跡周辺は、今後の調査によって新たな寺院・居館跡が発見される可能性が高い地域であるといえる。

第３節　周辺遺跡の過年度調査成果

過年度の調査成果については、『下中居天神裏遺跡　第１・２次調査』・『上中居前屋敷遺跡』において報告済みであり、遺跡分布状況については概ね明らかとなっている。遺構の特徴から大きく４つのエリアに区切って概観していきたい。

まず調査区北部に開削されている矢中堰の北側では、古墳時代前期頃の溝が複数開削されている。これらの遺構は北西から南東にのびる微高地上に立地しており、南東方向へと流下するものが多い（上中居前屋敷遺跡　１－１区・１－２区）。本報告の５区がこのエリアに該当する。

矢中堰の南西側（上中居前屋敷遺跡　２－１区・４区）には、中世（15 ～ 16 世紀頃）の溝が集中しており、これらの溝や井戸の覆土中から当該時期の瓦が多数出土している。走行方向は北西－南東方向が多く、これらに直交する溝も認められる。また、礎石を有する柱穴も確認されており、以上のような特徴から中世の寺院跡であった可能性が考えられる。

さらに南方の微高地縁辺部付近にあたる調査区では、前節で触れた矢中堰に沿うように築造された館址のうち、新井屋敷を構成する遺構群が検出されている。特に下中居天神裏遺跡１次５区、２次１・３・６・７区では堀跡が検出されており、内郭にあたる同２次２・５区では井戸やピットが多数検出されている。本報告の４区がこのエリアに該当する。

新井屋敷の南方は低地域となっており、Ａｓ－Ｂ軽石一次堆積層に埋没した平安時代の水田跡（Ｂ下水田）が広く展開している。下中居天神裏遺跡２次８区では、このＢ下水田の北縁部にあたる大型の畦畔が確認されている。また、同１次２Ｓ区では水路を伴う東西方向の大畦畔が検出されており、条里制地割に基づいて構築されていると考えられる。本報告の１～３区がこのエリアに該当する。

第１図　上中居前屋敷遺跡２周辺遺跡

第１表　周辺遺跡一覧表①

No.	遺跡名	主な遺構	文献
★	上中居前屋敷遺跡２（本遺跡）	古墳：溝　平安：Ｂ水田　中近世：溝・井戸	市教委345集
1	上中居前屋敷遺跡	古墳：溝・井戸　中世：溝・掘立・礎石・井戸　中近世：土坑墓	市教委327集
2	下中居天神裏遺跡第１・２次調査	平安：Ｂ水田・溝　中近世：井戸・溝	市教委296集
3	上中居森貝戸遺跡	縄文：住居　古墳：住居　奈良平安：畠	市教委149集
4	上中居宇名室遺跡	古墳：溝　奈良：土坑	市教委254集
5	上中居遺跡群	縄文：集石・溝　古墳：住居・周溝墓・溝　奈良平安：井戸・水田　中近世：堀・溝・井戸	市教委232集
6	上中居辻薬師遺跡	中近世：堀・道路状遺構・井戸・土坑墓	市教委101集
7	上中居辻薬師Ⅱ遺跡	古墳：住居・方形周溝墓・溝　中近世：堀・掘立・井戸	市教委122集
8	上中居辻薬師遺跡（４次）	古墳：住居・土坑　平安：住居	市教委258集
9	上中居辻薬師遺跡（５次）	古墳：溝　平安：溝　近現代：溝・井戸・Ａ処理溝	市教委258集
10	上中居辻薬師遺跡（６次）	古墳：住居・竪穴状・溝	市教委249集
11	上中居辻薬師遺跡（７次）	古墳：住居・溝　近現代：溝	市教委258集
12	上中居岡西遺跡（２次）	古墳：溝・井戸　平安：溝　近世：Ａ処理溝	市教委258集
13	上中居岡西遺跡３	古墳：溝　中近世：溝	市教委332集
14	上中居岡東遺跡（２次）	古墳：土坑　中近世：溝	市教委258集
15	上中居早道場遺跡	平安～近世：井戸・溝	市教委119集
16	上中居平塚Ⅰ遺跡	平安：Ｂ水田	調査会47集
17	上中居平塚Ⅱ遺跡	平安以降：溝	調査会53集
18	上中居平塚遺跡３	平安：Ｂ水田　中世：ピット	市教委265集
19	上中居西屋敷遺跡	平安：Ｂ水田・溝	調査会24集
20	上中居西屋敷Ⅱ遺跡	中近世：溝・井戸・土坑・ピット	調査会59集
21	上中居西屋敷Ⅲ遺跡	平安：Ｂ水田　平安以降：溝	調査会70集
22	上中居・西屋敷遺跡４	古墳：土坑　奈良平安：溝　中近世：溝・井戸	市教委300集
23	上中居荒神Ⅰ遺跡	平安：Ｂ水田　中世以降：溝	調査会62集
24	上中居荒神Ⅱ遺跡	平安：Ｂ水田	市教委158集
25	上中居荒神遺跡第３次	平安：Ｂ水田　中世：溝　近世：溝	市教委305集
26	上中居島薬師遺跡	平安：Ｂ水田　平安以降：土坑	調査会68集
27	中居町一丁目遺跡	古墳：住居・周溝墓　平安：住居・墓坑	群埋文398集
28	中居町一丁目遺跡２	古墳：住居・竪穴状・溝　平安：溝　近世：水田	市教委255集
29	中居町一丁目遺跡３	縄文：住居　古墳：溝　古墳～平安：溝　平安：Ｂ水田	群埋文509集
30	高関堰村遺跡	弥生：溝　中近世：掘立・溝	市教委116集
31	高関・堰村遺跡２	古墳：住居・溝　奈良平安：住居　中近世：掘立・溝	市教委287集
32	高関村前Ⅱ遺跡　高関東沖・村前遺跡	弥生：住居　古墳：住居・畠跡・柵跡　奈良平安：Ｂ水田・住居・溝　中近世：掘立・井戸・墓・溝	市教委135集
33	高関東沖Ⅱ遺跡	平安：Ｂ水田	調査会52集
34	高関東沖Ⅲ遺跡	平安：Ｂ水田・溝	市教委220集
35	高関高根遺跡	古墳～平安：住居・竪穴状・井戸　平安：住居・Ｂ水田　中近世：溝・井戸	市教委244集
36	岡久保遺跡	平安：Ｂ水田	市教委88集
37	岩押町Ⅰ遺跡	平安：Ｂ水田　中近世：溝	調査会25集
38	岩押町Ⅱ遺跡	平安：Ｂ水田	調査会56集
39	岩押Ⅲ遺跡	平安：Ｂ水田・溝　中近世：畠・災害復旧	群埋文520集
40	栄町Ⅰ遺跡	平安：Ｂ水田　近世：溝	調査会43集
41	栄町Ⅱ遺跡	平安：Ｂ水田・溝　中近世：溝・災害復旧	栄町遺跡調査会
42	栄町Ⅲ遺跡	平安：Ｂ水田　近世：Ａ充填溝	市教委187集
43	東町遺跡	平安：Ｂ水田	市教委98集
44	東町Ⅱ遺跡	平安：Ｂ水田	市教委121集
45	東町Ⅲ遺跡	弥生～古墳：Ｃ水田　平安：Ｂ水田	市教委130集
46	東町Ⅳ遺跡	弥生：水路　古墳～平安：水田　平安：Ｂ水田	市教委138集
47	東町Ⅴ遺跡	平安：Ｂ水田　近世：水田・Ａ充填溝　近代：製糸工場跡	市教委146集
48	東町Ⅵ遺跡	平安：Ｂ水田	調査会78集
49	東町遺跡７	平安：Ｂ水田　中世：溝	市教委301集

第２表　周辺遺跡一覧表②

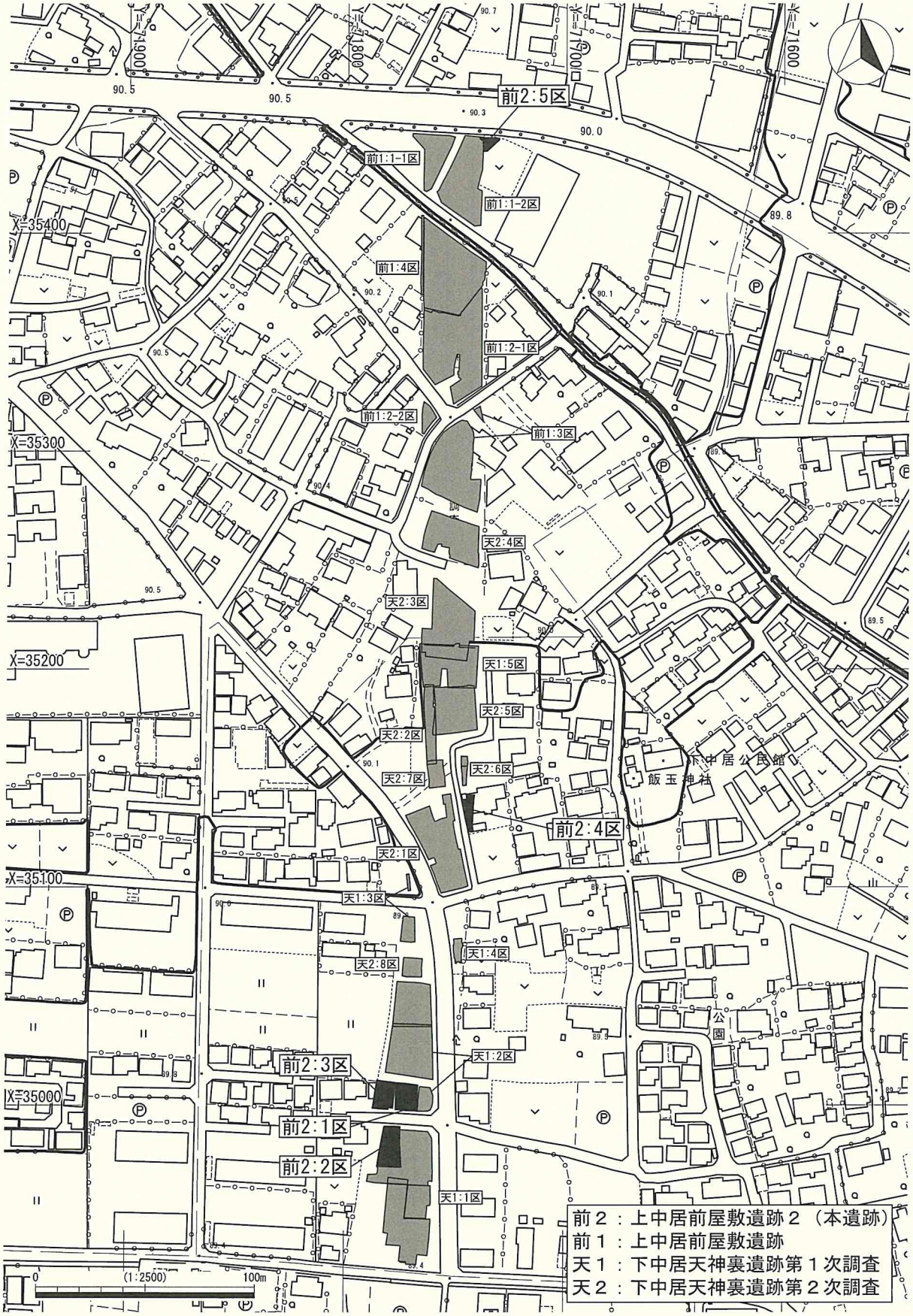
No.	遺跡名	主な遺構	文献
50	北双葉遺跡	平安：Ｂ水田　中近世：掘立	市教委295集
51	高崎競馬場遺跡	遺構なし	市史 資料編1 原始古代Ⅰ
52	柴崎遺跡群、南大類遺跡群	古墳：溝　奈良平安：住居・溝・Ｂ水田　中近世：溝	市教委126集
53	柴崎遺跡群（Ⅰ）（村間・富士塚前Ａ）	平安：Ｂ水田・水路	市教委49集
54	柴崎遺跡群（Ⅱ）（東原・富士塚・富士塚前Ｂ）	平安：Ｂ水田・水路	市教委62集
55	柴崎遺跡群（Ⅲ）（新堀・根際・吹手西Ａ・富士塚Ｂ）	平安：Ｂ水田	市教委70集
56	柴崎遺跡群（Ⅳ）（西沖・柳原・吹手西Ｂ）	平安：Ｂ水田・水路	市教委79集
57	柴崎遺跡群（Ⅴ）（殿谷戸・旭・富士塚、隼人・吹手・峰岸）	古墳：住居　奈良平安：住居	市教委92集
58	西浦・吹手西遺跡（西浦１、吹手西１）	古墳：周溝墓　平安：住居・溝　中近世：堀	市教委113集
59	柴崎遺跡群（柴崎西浦２・隼人２・吹手西２）	古墳：周溝墓	市教委118集
60	柴崎・隼人遺跡３	平安：竪穴建物　中世：水田・溝	市教委298集
61	柴崎村間遺跡（２次）	縄文：土坑　古墳：土坑　中世：溝・井戸　近世：溝・井戸	調査会16集
62	柴崎屋敷遺跡	古墳～平安：溝　中世：堀	市教委334集
63	矢中遺跡群（Ⅱ）（矢中天王前）	平安：Ｂ水田・溝　平安以降：溝	市教委35集
64	矢中遺跡群（Ⅲ）（矢中村北Ａ）	平安：Ｂ水田・溝　平安以降：溝　中近世：溝	市教委40集
65	矢中遺跡群（Ⅳ）（矢中宝昌寺裏）	平安：住居・Ｂ水田　中近世：堀・井戸	市教委43集
66	矢中遺跡群（Ⅴ）（柴崎前・矢中村北Ｂ２次）	平安：住居・井戸・集石・土坑・Ｂ水田	市教委52集
67	矢中遺跡群（Ⅵ）（矢中村北Ｃ）	中世：堀・溝	調査会3集
68	矢中遺跡群（Ⅶ）（矢中村東）	古墳：周溝墓　平安：Ｂ水田	市教委57集
69	矢中遺跡群（Ⅷ）（矢中村東Ｂ）	古墳：周溝墓　平安：Ｂ水田	市教委60集
70	矢中遺跡群（Ⅸ）（柴崎下村北・砂内）	古墳：古墳　平安：Ｂ水田　中近世：堀・土塁・掘立柱建物・井戸・溝	市教委67集
71	矢中遺跡群（Ⅹ）（矢中村東Ｃ）	古墳：周溝墓　平安：Ｂ水田　中世：館跡	市教委82集
72	矢中村北Ｄ・下村北Ⅱ・渕ノ内遺跡	古墳：溝　奈良平安：住居・Ｂ水田　中近世：溝・井戸	市教委173集
73	矢中村西Ⅰ遺跡	平安：Ｂ水田	調査会44集
74	下中居条里遺跡（八幡前１・２、村西２）	古墳：住居・土坑・井戸・溝・Ｃ水田　平安：住居・土坑・溝・Ｂ水田　中世：溝　近世：井戸・溝	市教委145集
75	下中居条里Ⅱ遺跡（八幡前３）	中世：水田跡　近世：畠跡	市教委159集
76	下中居条里Ⅲ遺跡	縄文：住居・土坑　古墳：住居　奈良：土坑　平安：住居・溝・Ｂ水田　中世：溝	市教委183集
77	飯玉Ⅰ・Ⅱ遺跡	平安：Ｂ水田	市教委161集
78	稲荷町Ⅱ遺跡	古墳：古墳・溝　中世：土坑　近世：水路	市教委142集
79	林製作所遺跡	遺構なし	市史 資料編1 原始古代Ⅰ
80	上大類坂サ堰遺跡	平安：Ｂ水田	調査会64集
81	上大類薬師遺跡	古墳：住居　奈良平安：住居	調査会8集
82	上大類北宅地遺跡（１・２次）	弥生～古墳：住居・周溝墓　奈良平安：溝	市教委37集
83	上大類野地田遺跡	奈良平安：水田　平安：Ｂ水田　近世：溝	調査会35集
84	上大類・川押遺跡２	古墳：旧河川　中世：堀・溝	市教委247集
85	宿大類遺跡群（天田・川押）	奈良平安：住居・掘立・Ｂ水田・火葬墓　中近世：火葬墓・土坑墓	市教委41集
86	宿大類遺跡群（２）（天田Ⅱ）	奈良平安：住居　平安：Ｂ水田　中世：堀・掘立・井戸・土坑墓	市教委48集
87	宿大類遺跡群（３）（山鳥・天神）	縄文：住居・土坑　奈良平安：・掘立・溝・土坑墓・井戸　平安：Ｂ水田	市教委56集
88	宿大類遺跡群（Ⅳ）（村北・矢島前・村東）	平安：住居・Ｂ水田　中世：堀・掘立・竪穴建物・井戸・土坑墓	市教委61集
89	宿大類遺跡群（５）（宿大類天神久保）	平安：住居・Ｂ水田	市教委64集
90	宿大類遺跡群Ⅵ（万相寺）	縄文：住居　弥生：住居　古墳：住居　奈良平安：住居・掘立　平安：Ｂ水田　中世：掘立	市教委66集
91	宿大類遺跡群Ⅶ（矢島町村西・増殿）	縄文：住居・土坑　古墳：住居・溝　奈良平安：住居・掘立　中世：堀・掘立・井戸・溝・土坑墓	市教委71集
92	宿大類遺跡群Ⅷ（宿大類町村西）	縄文：住居　弥生：住居　古墳：住居・周溝墓　奈良平安：住居・掘立・井戸　中世：堀・井戸	市教委75集
93	矢島竹之内遺跡	弥生：住居・甕棺墓　古墳：周溝墓・住居　中世：溝	市教委86集
94	矢島町薬師遺跡	弥生：住居　古墳：古墳・住居・溝　平安～中世：ピット群	調査会27集
95	元島名瓦井遺跡	平安：Ｂ水田	調査会39集
96	鈴ノ宮遺跡	弥生：住居・周溝墓・壺棺　古墳：古墳・住居・周溝墓　平安：住居　中近世：堀・井戸	市教委4集
97	情報団地遺跡	弥生：住居・掘立・周溝墓　古墳：住居・古墳　奈良平安：住居・掘立・道路　平安：Ｂ水田　中近世：館跡・溝	調査会55集
98	情報団地Ⅱ遺跡	縄文・弥生：住居　古墳：住居・掘立・古墳　奈良平安：住居・掘立・道路・溝　平安：Ｂ水田　中近世：館跡・溝・水田	市教委177集
99	中大類沖田遺跡	平安：Ｂ水田　近世：Ａ処理坑・溝	調査会81集

第３表　周辺遺跡一覧表③

No.	遺跡名	主な遺構	文献
100	南大類東沖・稲荷遺跡	縄文：溝　弥生：周溝墓　古墳：住居　奈良平安：住居・掘立・Ｂ水田・溝	市教委148集
101	南大類村南遺跡	平安：住居 中世：堀・井戸	市教委131集
102	南大類村南遺跡２	平安：B水田	市教委323集
103	南大類中通遺跡	平安：B水田・溝	市教委189集
104	南大類柳原沖遺跡	平安：Ｂ水田・溝	調査会80集
105	城南小学校庭弥生遺跡（新後閑寺廻遺跡）	遺構なし	市教委1集
106	新後閑遺跡	古墳：住居・掘立　奈良平安：住居・掘立・井戸　中世：溝	市教委237集
107	新後閑遺跡２	古墳（７ｃ）：住居・周溝遺構 奈良平安：住居	市教委241集
108	和田多中遺跡	平安：Ｂ水田	市教委93集
109	双葉町Ⅰ遺跡	古墳：住居・溝　平安：Ｂ水田 近世：溝・竪穴遺構	調査会48集
110	下之城条里遺構	平安：水田・溝　中世：掘立	群 埋 文1981『下之城条里遺構の調査』
111	下之城村東遺跡	奈良平安：溝　平安：Ｂ水田 近世：Ａ処理坑	調査会1集
112	下之城村東遺跡２	平安：B水田・溝	調査会5集
113	下之城・村東遺跡３	平安：B水田・溝　中近世：溝	市教委252集
114	下之城村西遺跡	中世：鋤痕	市教委127集
115	下之城村前Ⅱ遺跡	平安：Ｂ水田	調査会50集
116	下之城村前Ⅲ遺跡	平安：B水田・溝　中近世：溝	市教委174集
117	下之城村前Ⅳ遺跡	古墳：住居・溝　平安：Ｂ水田 中世：堀・掘立　近世：畝跡	市教委181集
118	下之城村前Ⅴ遺跡	古墳：住居　平安：Ｂ水田　中世：溝　近代：溝	市教委184集
119	下之城村前遺跡７	平安：Ｂ水田・溝　中近世：溝	市教委313集
120	下之城仲沖遺跡	奈良平安：住居　平安：Ｂ水田 中近世：溝	市教委192集
121	下之城仲沖Ⅱ遺跡	平安：Ｂ水田　近世：溝	市教委195集
122	下之城仲沖遺跡３	古墳～平安：溝　平安：Ｂ水田 中近世：溝	市教委307集
123	下之城仲沖遺跡４	古墳：溝　平安：Ｂ水田　近世：溝	市教委325集
124	倉賀野西上正六遺跡	古墳：住居・掘立・溝　中世：竪穴状・溝	市教委268集
125	倉賀野上新堀Ⅰ遺跡	奈良平安：溝　中近世：溝	市教委174集
126	倉賀野下新堀遺跡	平安：Ｂ水田	市教委234集
127	倉賀野条里Ⅰ遺跡（倉賀野上稲荷、倉賀野三坊木）	平安：Ｂ水田　中世：堀・井戸	市教委172集
128	倉賀野条里Ⅱ遺跡（倉賀野上稲荷２、倉賀野三坊木２）	平安：Ｂ水田・溝　近世：Ａ水田	市教委172集
129	倉賀野条里Ⅲ遺跡（倉賀野上稲荷３）	平安：Ｂ水田・溝　中世：堀・掘立　近世：畠	市教委172集
130	倉賀野条里Ⅳ遺跡（倉賀野上稲荷４）	平安：住居・溝・土坑	市教委172集
131	倉賀野条里Ⅴ遺跡（倉賀野上稲荷５）	平安：住居・溝　近世：溝	市教委172集
132	倉賀野条里Ⅵ遺跡（倉賀野続橋）	平安：Ｂ水田　近現代：溝	市教委164集
133	倉賀野万福寺遺跡	縄文：住居・土坑　古墳：住居・古墳・周溝墓・土坑墓　中近世：掘立・土坑墓・配石遺構・溝	調査会4集
134	倉賀野万福寺Ⅱ遺跡	縄文：住居　古墳：住居・古墳・周溝墓・埴輪棺　中近世：掘立・火葬墓・土坑墓・井戸・溝	調査会26集
135	倉賀野宮之前遺跡	古墳：古墳・周溝墓・住居	市教委24集
136	倉賀野下天神遺跡	平安：Ｂ水田　近世：溝	調査会40集
137	倉賀野駅北Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ遺跡	平安：住居・Ｂ水田・井戸　中世：溝・井戸　近世：畠・復旧坑	市教委202集
138	倉賀野上樋越遺跡	奈良平安：住居・溝　平安以降：溝　中世：井戸・溝　近世：溝・Ａ処理坑	市教委326集
139	倉賀野辻薬師遺跡	古墳：住居	市教委336集
140	倉賀野中里前遺跡	古墳～奈良・平安：住居　中世：火葬跡	調査会45集
141	上佐野樋越遺跡	平安：B水田　近世：畠	群埋文300集
142	上佐野船橋遺跡	古墳：住居・古墳　平安：住居 中世：井戸	調査会23集
143	上佐野船橋Ⅱ遺跡	古墳：住居　平安：住居・井戸	市教委121集
144	上佐野船橋Ⅲ遺跡	古墳：古墳・住居　平安：住居	調査会22集
145	上佐野船橋遺跡４	古墳：古墳・住居　平安：住居	市教委346集
146	上佐野舟橋遺跡５	古墳：住居　平安：溝	市教委338集
147	船橋遺跡	古墳：住居・古墳・小石槨　平安：住居　中世：井戸・溝	群埋文92集
148	下佐野遺跡Ⅰ地区・寺前地区	縄文：住居・土坑　古墳：住居・古墳・周溝墓・石槨　平安：住居　中世：居館址・掘立	群埋文77集
149	下佐野遺跡Ⅱ地区	縄文：住居　古墳：住居・周溝墓　平安：住居　中世：井戸 近世：屋敷址	群 埋 文1986『下佐野Ⅱ地区』

第４表　周辺遺跡一覧表④

No.	遺跡名	主な遺構	文献
150	下佐野一本木遺跡２	奈良平安：住居・石組遺構	市教委225集
151	下佐野長者屋敷遺跡	古墳：住居　古墳～平安：溝 平安：ピット　中世：火葬遺構	市教委239集
152	越後塚古墳	墳丘:前方後円（100～）　主体:不明　時期：5ｃ後半	市史 資料編1 原始古代Ⅰ
153	柴崎蟹沢古墳	墳丘：円（12）　主体：粘土槨か　時期：４ｃ後半	市史 資料編1 原始古代Ⅰ
154	蔵王塚古墳	墳丘：円（44）　主体：横穴式石室　時期：６ｃ後半	市史 資料編1 原始古代Ⅰ
155	漆山古墳	墳丘:前方後円（60m～）　主体:横穴式石室　時期：６ｃ後半～７ｃ初	市史 資料編1 原始古代Ⅰ
156	長者屋敷天王山古墳	墳丘：円（42）　主体：粘土槨 時期：４ｃ末	市史 資料編1 原始古代Ⅰ
157	浅間山古墳	墳丘：前方後円（171.5）　主体：竪穴系か　時期：４ｃ末～５ｃ初	市史 資料編1 原始古代Ⅰ
158	大鶴巻古墳	墳丘：前方後円（123）　主体：竪穴系か　時期：４ｃ末～５ｃ初	市史 資料編1 原始古代Ⅰ
159	小鶴巻古墳	墳丘：前方後円（87.5）　主体：舟形石棺　時期：５ｃ後半	市史 資料編1 原始古代Ⅰ
160	庚申塚古墳	墳丘：円(46)　主体：粘土槨・石棺　時期：不明	市史 資料編1 原始古代Ⅰ
161	大山古墳	墳丘：円（56）　主体：粘土槨　時期：４ｃ末～５ｃ初	市史 資料編1 原始古代Ⅰ
162	茶臼山古墳	墳丘：円(57)　主体：不明 時期：不明	市史 資料編1 原始古代Ⅰ
163	一本杉古墳	墳丘：円（25）　主体：横穴式石室　時期：７ｃ中～	市史 資料編1 原始古代Ⅰ
164	安楽寺古墳	墳丘：円（20）　主体：横口式石槨　時期：７ｃ末	市史 資料編1 原始古代Ⅰ
165	長賀寺山古墳	墳丘：前方後円(35～)　主体：横穴式石室　時期：６ｃ後半か	市史 資料編1 原始古代Ⅰ
A	下中居新井屋敷	時期：16ｃ　築造：新井氏	市教委296集
B	反町城	時期：戦国　築造：反町氏	市教委296集
C	新堀の砦	時期：室町　築造：不明	市史 資料編3 中世Ⅰ
D	高尾屋敷	時期：戦国　築造：高尾佐渡守か	市史 資料編3 中世Ⅰ
E	下中居佐藤屋敷	時期：16ｃ　築造：佐藤氏	市史 資料編3 中世Ⅰ
F	下中居福田屋敷	時期：16ｃ　築造：福田氏	市史 資料編3 中世Ⅰ
G	岡田屋敷	時期：室町か　築造：岡田氏	市史 資料編3 中世Ⅰ
H	高関屋敷	時期：戦国　築造：角田氏	市教委116集
I	丸茂屋敷	時期：室町　築造：丸茂氏	市教委232集
J	宇名室環濠遺構	時期：16ｃ　築造：堤氏等	市史 資料編3 中世Ⅰ
K	隼人屋敷	時期：天文年間　築造：原隼人	市史 資料編3 中世Ⅰ
L	柴崎西浦屋敷	時期：不明　築造：高井氏か	市教委113集
M	高井屋敷	時期：16ｃか　築造：高井氏	市史 資料編3 中世Ⅰ
N	柴崎桜井屋敷	時期：15ｃ　文明六年（1474） 築造：桜井氏（桜井与左衛門）	市史 資料編3 中世Ⅰ
O	光明寺	時期：室町　築造：不明	市史 資料編3 中世Ⅰ
P	村間屋敷	時期：室町　築造：不明	市史 資料編3 中世Ⅰ
Q	蟹沢屋敷	時期：不明　築造：不明	市史 資料編3 中世Ⅰ
R	栗原・矢中屋敷	時期：16ｃ　築造：栗原内記・矢中新左衛門	市史 資料編3 中世Ⅰ
S	下村北屋敷	時期：16ｃ　築造：大沢氏・松本氏	市教委67集
T	江木環濠遺構	時期：16ｃ　築造：不明	市史 資料編3 中世Ⅰ
U	上大類新井屋敷	時期：16ｃ　築造：新井氏（新井刑部か）	市史 資料編3 中世Ⅰ
V	長井屋敷	時期：16ｃ　築造：長井氏	市史 資料編3 中世Ⅰ
W	天田館	時期：室町　築造：不明	市教委48集
X	村北屋敷	時期：室町　築造：不明	市教委61集
Y	大類城	時期：戦国　築造：和田氏	市教委75集
Z	大類館	時期：15ｃ　築造：大類氏	市史 資料編3 中世Ⅰ
a	塚ノ越屋敷	時期：14ｃか　築造：不明	市史 資料編3 中世Ⅰ
b	矢島西城	時期：室町　築造：足利氏か	市教委71集
c	矢島反町屋敷	時期：戦国（天正期）　築造：反町氏	市史 資料編3 中世Ⅰ
d	鈴ノ宮屋敷	時期：不明　築造：不明	市教委4集
e	新後閑屋敷	時期：16ｃ　築造：新後閑氏	市史 資料編3 中世Ⅰ
f	和田下之城	時期：永禄五～六（1562～1563）頃 築造：和田氏	市史 資料編3 中世Ⅰ
g	倉賀野新堀屋敷	時期：室町　築造：不明	市史 資料編3 中世Ⅰ
h	永泉寺の砦	時期：16ｃ　築造：不明	市史 資料編3 中世Ⅰ
i	養報寺	時期：戦国か　築造：不明	市史 資料編3 中世Ⅰ
j	倉賀野城	時期：室町　築造：倉賀野氏	市史 資料編3 中世Ⅰ
k	倉賀野東城	時期：16ｃ　築造：不明	市史 資料編3 中世Ⅰ
l	倉賀野西城	時期：室町　築造：倉賀野氏か	市史 資料編3 中世Ⅰ
m	上稲荷前屋敷	時期：室町　築造：不明	市史 資料編3 中世Ⅰ
n	佐野屋敷	時期：室町　築造：不明	群埋文77集
o	堀口屋敷	時期：室町　築造：堀口氏	市史 資料編3 中世Ⅰ
p	清水屋敷	時期：室町　築造：不明	群埋文77集
q	夕日長者屋敷	時期：室町　築造：不明	群埋文77集
r	木部北城	時期：戦国　築造：木部氏か	市史 資料編3 中世Ⅰ



第２図　上中居前屋敷遺跡２調査区位置図

第３章　発掘調査の方法

第１節　調査区の設定

調査区の設定は、道路予定範囲のうち未調査部分を対象として行った。１～３区については、家屋の移転が済み調査可能な状態になった時点で随時調査を行った。４区は道路予定地内にかかっていたブロック塀の撤去後に調査を行った。なお西に隣接する既存の道路については、上下水道埋設により既に遺構検出面より下位まで掘削が及んでいるため調査範囲から除外した。５区は道路予定地内の隅切り部分を対象とし、設置されていた看板を撤去した後に調査を行った。

第２節　調査方法・記録方法

表土掘削は全て重機を使用し、遺構確認面まで掘り下げを行った。４区については隣接地に排土を置くことができなかったため、ダンプを使用して排土の運び出しを行った。表土除去後は、人力による遺構確認作業を行い、重複関係を確認した後に新しい遺構から調査を行った。遺構掘削に際しては、土層観察用のベルトを設定しながら覆土掘削を行った。遺物の取上げは原位置での記録化を原則とし、座標値および標高値を付与した後に取上げを行った。遺物出土状況・遺構平面図・土層断面図などの記録図面については、調査担当者および作業員が段階的に作成し、記録化を行った。調査中の写真記録については、一眼レフを用いて35mmのモノクロとカラーリバーサル、補足としてデジタルカメラで調査担当者が撮影した。調査終了後には重機を使用して埋戻し作業を行った。

第４章　発掘調査の記録

第１節　遺跡の概要

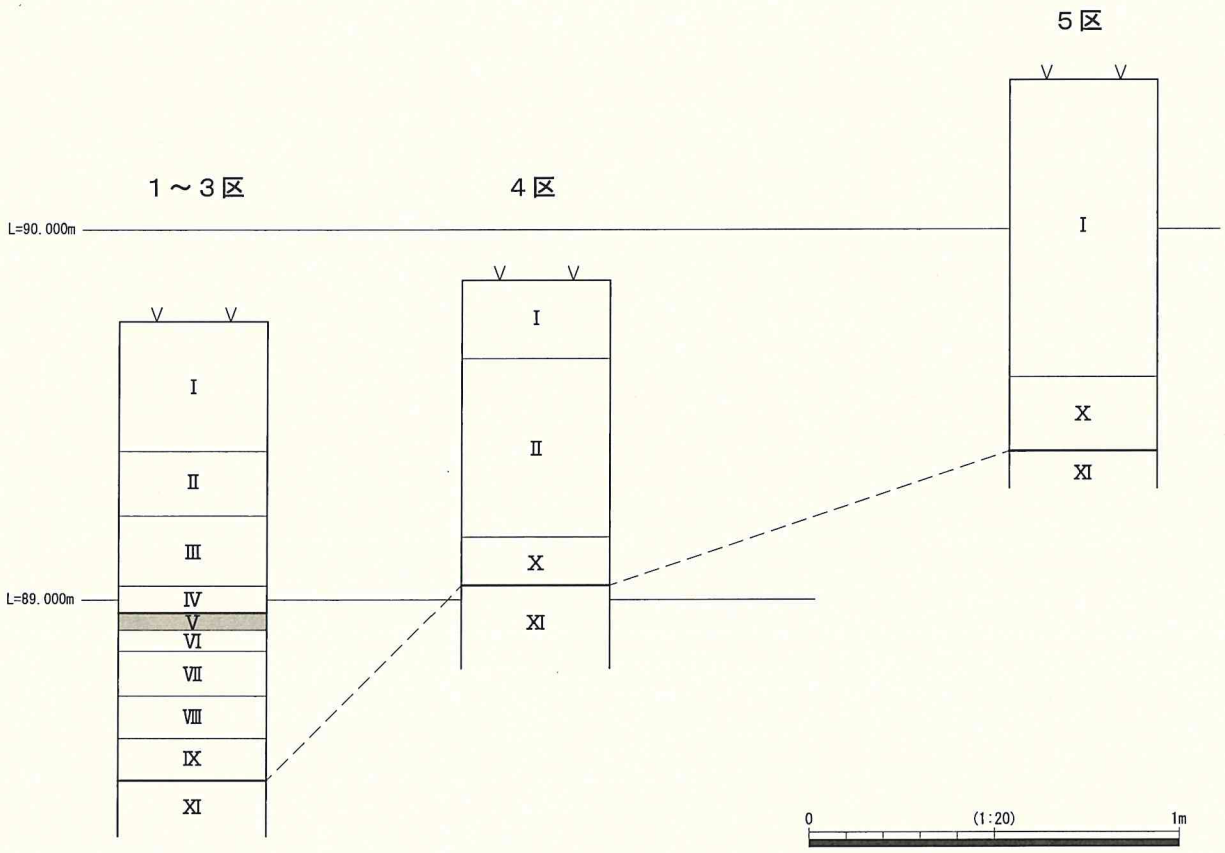
本報告書では、５箇所の発掘調査成果について報告を行う。調査実施順に１～５区を設定しており、平成21年度に１・２区、平成25年度に３区、平成26年度に４・５区の発掘調査を行った。主に１～３区ではＢ下水田、４区では新井屋敷に関連すると思われる溝、５区では古墳時代前期の溝などが検出された。

第２節　基本層序

本遺跡の基本層序は調査地点によって大きく異なるが、１～３区については土層堆積状況が類似しているため、１～３区・４区・５区の３地点についての基本層序を図示することとした（第３図）。

低地エリアにあたる１～３区では、地表面より80cmほどの深度でＡｓ－Ｂ一次堆積層（第Ⅴ層）が確認され、この上面を遺構確認面とした。この下層には水田土壌である粘質土が堆積しており、表面がより強い黒色を呈する（第Ⅵ層）。粘質土層の下にはきめの細かい砂層（第Ⅷ層）が形成されており、さらに粘質土層を一層介して黄色地山土（第Ⅺ層）が確認された。

１～３区のやや北方にある４区は微高地の縁辺部にあたり、現況では視認しづらいが第Ⅺ層の堆積レベルに50cmほどの落差がある。この微高地上は大きく削平を受けていると考えられ、Ａｓ－Ｂ一次堆積層は確認できなかった。表土（第Ⅰ層）およびＡｓ－Ａ軽石混土層（第Ⅱ層）の下には、Ａｓ－Ｃ軽石粒を若干含む黒色土層（第Ⅹ層）が残存していたが、本層上面においては遺構確認が困難であったため、その下層にあたる第Ⅺ層上面を遺構検出面とした。さらに北方にあたる５区では、４区と同様の土層堆積状況が確認された。遺構検出面も４区と同様に第Ⅺ層上面とした。



Ⅰ　表土

Ⅱ　Ａｓ－Ａ混土層　　褐灰（Hue10YR 4/1）
　しまり・粘性やや弱い。砂質。Ａ軽石粒ごく少量。

Ⅲ　黄色砂質土　　明黄褐色（Hue2.5Y 7/6）
　しまりやや強く、粘性やや弱い。砂質。黄色粒少量。

Ⅳ　黒褐色砂質土　　黒褐色（Hue10YR 3/1）
　しまり強く、粘性弱い。砂質。Ｂ軽石粒やや少量。

Ⅴ　Ａｓ－Ｂ一次堆積層　　灰黄色（Hue2.5Y 6/2）
　しまり・粘性なし。最下に薄い灰層あり。

Ⅵ　黒色粘質土　　黒色（Hue10YR 2/1）
　しまりやや弱く、粘性強い。粘質。水田土壌。

Ⅶ　灰色粘質土　　褐灰色（Hue10YR 6/1）
　しまり弱く、粘性強い。シルトを含む粘質。斑点状に黄色化。

Ⅷ　灰白色砂質土　　灰白（Hue10YR 7/1）
　しまり・粘性なし。砂質。

Ⅸ　黒褐色粘質土　　黒褐色（Hue10YR 3/1）
　しまりやや弱く、粘性やや強い。砂混じりの粘質土。

Ⅹ　黒色土　　黒色（Hue10YR 2/1）
　しまりやや強く、粘性やや弱い。Ｃ軽石粒ごく少量。

Ⅺ　黄色地山土　　にぶい黄橙色（Hue10YR 7/4）
　しまり・粘性やや強い。斑点状に酸化。礫やや少量。

第３図　基本土層図

第３節　発掘調査成果

（1）１～３区の発掘調査成果

１～３区ではいずれもＢ下水田が確認されており、調査区をまたいで畦畔が複数検出されている。基本的には下中居天神裏遺跡１・２次調査と同様の情報を得ることとなったが、３区では水田面の下より須恵器・土師器片が出土する範囲が確認できたため、３区の調査成果を中心に報告したい。

１号畦畔（第５・６図）

東西方向の畦畔であるが、北に膨らむように弧を描いている。軸方向はＮ－81°－Ｗである。検出長7.9ｍ、幅1.65ｍ、高さ７cmである。１区において続きが検出されており、調査区中央に構築された南北方向の畦畔に接続し、東には連続しない。

２号畦畔（第５・６図）

北西－南東方向の畦畔であり、軸方向はＮ－34°－Ｗである。検出長９ｍ、幅1.55ｍ、高さ６cmである。２号畦畔の南西側の水田面の方が若干低くなっている。なお、調査区南東部においては、２号畦畔の東側への傾斜が非常に不明瞭となっており、この近辺は水田面に比して若干高くなっているようである。

円形の高まり（第５図）

１号畦畔および２号畦畔によって形成された水田面では、直径約0.9ｍ、高さ約３cmの円形の高まりが３か所確認された。全て断割り調査を行ったが、Ｂ下水田面下に高まりが存在する様子はなく、また遺構等も確認できなかった。

水田面下の礫および土器（第５図）

２号畦畔の説明で触れた調査区南東部の高まりにおいて、Ｂ下の面でやや大型の礫が表出している箇所が確認された。遺構の掘り込みなどは確認できなかったため、トレンチを入れて調査を行ったところ、灰色粘質土層（第Ⅶ層）中において須恵器坏・土師器甕の出土が確認された。土師器甕は、表出していた礫の直下から逆さの状態で出土した。これを受けて土器出土エリア周辺を第Ⅶ層中位あたりまで掘削したが、それ以上の土器の出土は確認できなかった。

（2）４区の発掘調査成果

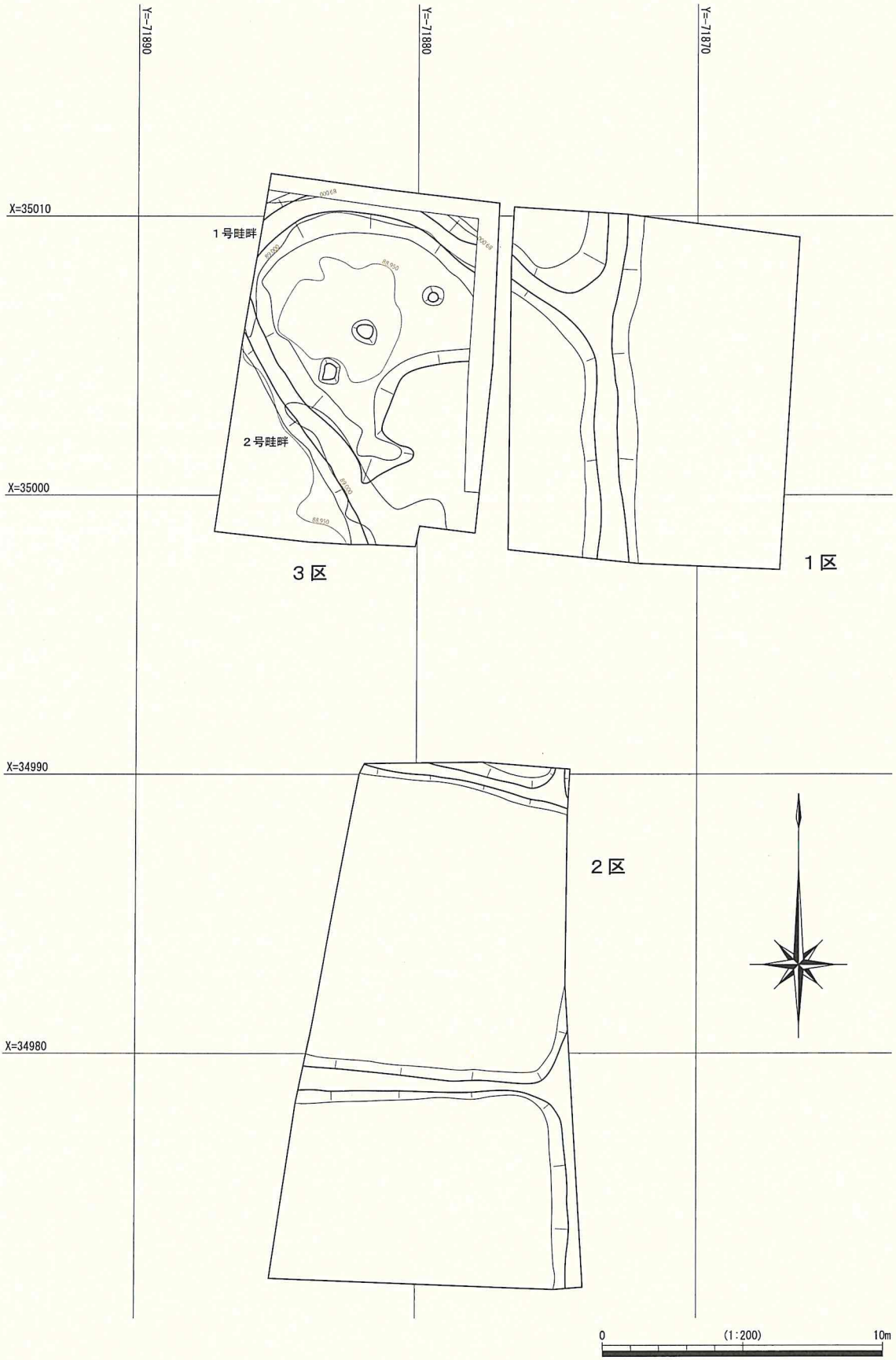
先述の通り、４区では新井屋敷に関連すると思われる中近世の溝・井戸が検出されている。この他にピットも数基検出されており、中には柱痕跡もしくは抜取痕が確認できるものもある（６～８号ピット）。遺物の出土は皆無であるため時期は不明瞭だが、屋敷を構成する構造物に伴う柱穴である可能性も考えておきたい。

１号溝（第８図）

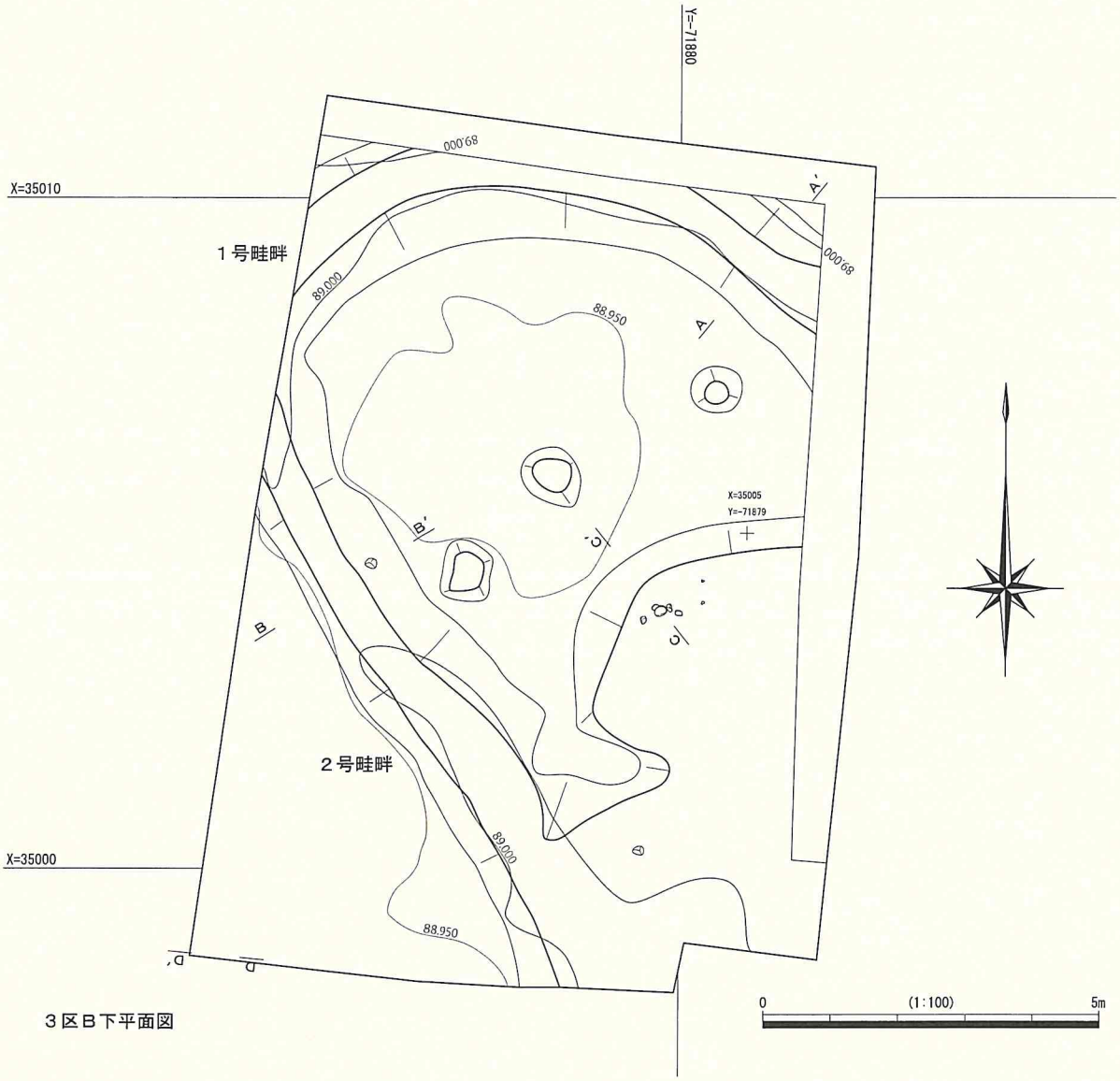
南西－北東方向に開削されており、軸方向はＮ－77°－Ｅである。検出長2.85ｍ、上幅0.45ｍ、基底幅0.15ｍ、検出面からの深さ15cmである。覆土はＡｓ－Ａ軽石粒を含む褐灰色粘質土である。出土遺物はなく、覆土の状況から遺構の所属時期は近世以降と考えられる。

２号溝（第８図）

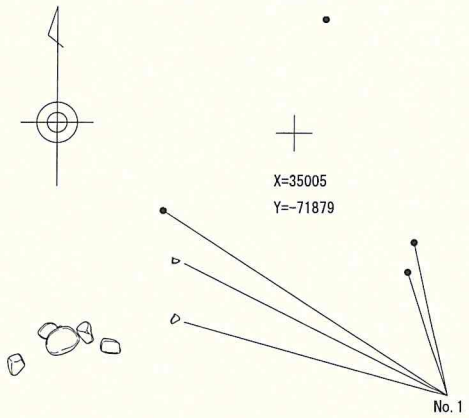
南西－北東方向に開削されており、軸方向はＮ－78°－Ｅである。検出長1.8ｍ、上幅0.3ｍ、基底幅0.1ｍ、検出面からの深さ４cmである。１号土坑を切る。覆土はＡｓ－Ａ軽石粒を含む褐灰色粘質土である。出土遺物はなく、覆土の状況から遺構の所属時期は近世以降と考えられる。


Y=-71890
Y=-71880
Y=-71870
X=35010
X=35000
X=34990
X=34980
１号畦畔
２号畦畔
３区
１区
２区
0
(1:200)
10m

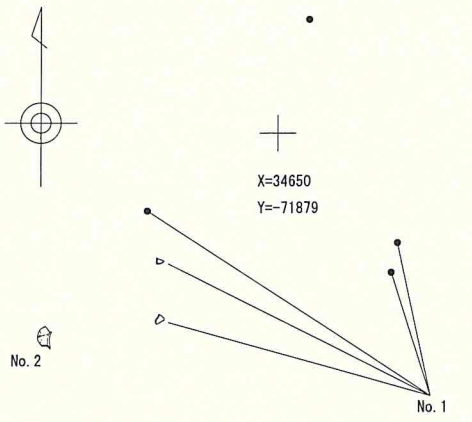
第４図　１・２・３区全体図



３区Ｂ下平面図



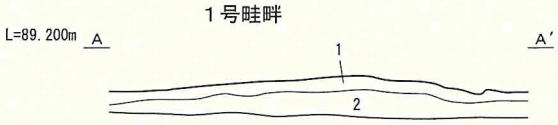
礫・遺物出土状況（Ⅵ層除去後）



遺物出土状況（礫除去後）

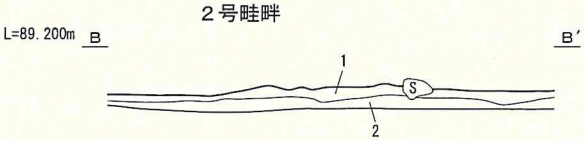
第５図　３区平面図

１号畦畔

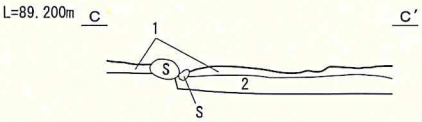


1　基本土層のⅥ層。Ｂ下水田面。
2　基本土層のⅦ層。

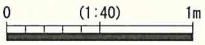
２号畦畔

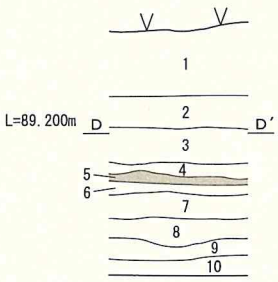


1　基本土層のⅥ層。Ｂ下水田面。
2　基本土層のⅦ層。

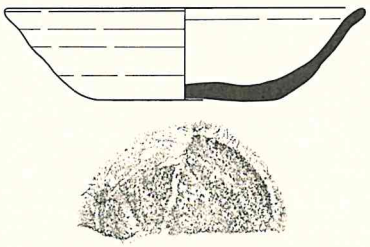


1　基本土層のⅥ層。Ｂ下水田面。
2　基本土層のⅦ層。

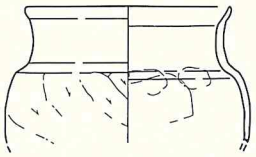




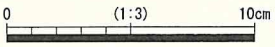
1　表土（Ｉ層）
2　Ａｓ－Ａ混土層（Ⅱ層）
　褐灰（Hue10YR 4/1）
　しまり・粘性やや弱い。砂質。Ａ軽石粒ごく少量。
3　黄色砂質土（Ⅲ層）
　明黄褐色（Hue2.5Y 7/6）
　しまりやや強く、粘性やや弱い。砂質。黄色粒少量。
4　黒褐色砂質土（Ⅳ層）
　黒褐色（Hue10YR 3/1）
　しまり強く、粘性弱い。砂質。Ｂ軽石粒やや少量。
5　Ａｓ－Ｂ一次堆積層（Ｖ層）
　灰黄色（Hue2.5Y 6/2）
　しまり・粘性なし。最下に薄い灰層あり。
6　黒色粘質土（Ⅵ層）
　黒色（Hue10YR 2/1）
　しまりやや弱く、粘性強い。粘質。水田土壌。
7　灰色粘質土（Ⅶ層）
　褐灰色（Hue10YR 6/1）
　しまり弱く、粘性強い。シルトを含む粘質。斑点状に黄色化。
8　灰白色砂質土（Ⅷ層）
　灰白（Hue10YR 7/1）
　しまり・粘性なし。砂質。
9　黒褐色粘質土（Ⅸ層）
　黒褐色（Hue10YR 3/1）
　しまりやや弱く、粘性やや強い。砂混じりの粘質土。
10　黄色地山土（Ⅺ層）
　にぶい黄橙色（Hue10YR 7/4）
　しまり・粘性やや強い。斑点状に酸化。礫やや少量。



1



2



第６図　３区断面図・出土遺物

３号溝（第８図）

南西－北東方向に開削されており、軸方向はＮ－70°－Ｅである。検出長4.7ｍ、上幅1.2ｍ、基底幅0.4ｍ、検出面からの深さ30㎝である。覆土は砂粒を含む粘質土である。出土遺物は軟質陶器焙烙・内耳鍋、須恵器埦などの小片である。出土遺物から遺構の所属時期は中近世と考えられる。なお、この３号溝は新井屋敷に関連する遺構と考えられ、下中居天神裏遺跡第２次１区のＳＤ９と同一の遺構である。

１号土坑（第８図）

平面形は楕円形を呈し、検出長0.7ｍ、検出幅0.2ｍ、検出面からの深さ12cmである。２号溝に切られる。覆土は黒色土ブロックを含む砂粒である。出土遺物は土師器の小片のみである。Ａｓ－Ａ軽石を覆土に含む２号溝に切られることから遺構の所属時期は近世以前と考えられる。

１号井戸（第９図）

平面形は円形を呈し、長軸0.98ｍ、短軸0.8ｍ、検出面からの深さ82㎝である。２号溝に切られる。覆土は砂粒を多量に含む黒褐色粘質土である。出土遺物はかわらけである。出土遺物から遺構の所属時期は中世以降と考えられる。底面には約20㎝の礫が数点配されており、それぞれの礫上面のレベルがある程度そろってはいたが、全面に礫が敷かれていた明確な痕跡は確認できなかった。

１号ピット（第９図）

平面形は隅丸方形を呈し、長軸0.5ｍ、短軸0.43ｍ、検出面からの深さ23cmである。覆土は砂粒を含む褐灰色粘質土であり、黄色地山土粒をやや多く含む。出土遺物や明確な軽石粒がなく、遺構の所属時期は不明である。

２号ピット（第９図）

平面形は円形を呈し、長軸0.5ｍ、短軸0.47ｍ、検出面からの深さ17cmである。覆土は褐灰色土である。出土遺物や明確な軽石粒がなく、遺構の所属時期は不明である。

３号ピット（第９図）

平面形は楕円形を呈し、長軸0.7ｍ、短軸0.53ｍ、検出面からの深さ９cmである。覆土はシルト混じりの黒褐色粘質土であり、黄色地山土粒を多く含む。出土遺物や明確な軽石粒がなく、遺構の所属時期は不明である。

４号ピット（第９図）

平面形は円形を呈し、長軸0.44ｍ、短軸0.4ｍ、検出面からの深さ14cmである。覆土は黒褐色粘質土であり、黄色地山土ブロックを多く含む。出土遺物や明確な軽石粒がなく、遺構の所属時期は不明である。

５号ピット（第９図）

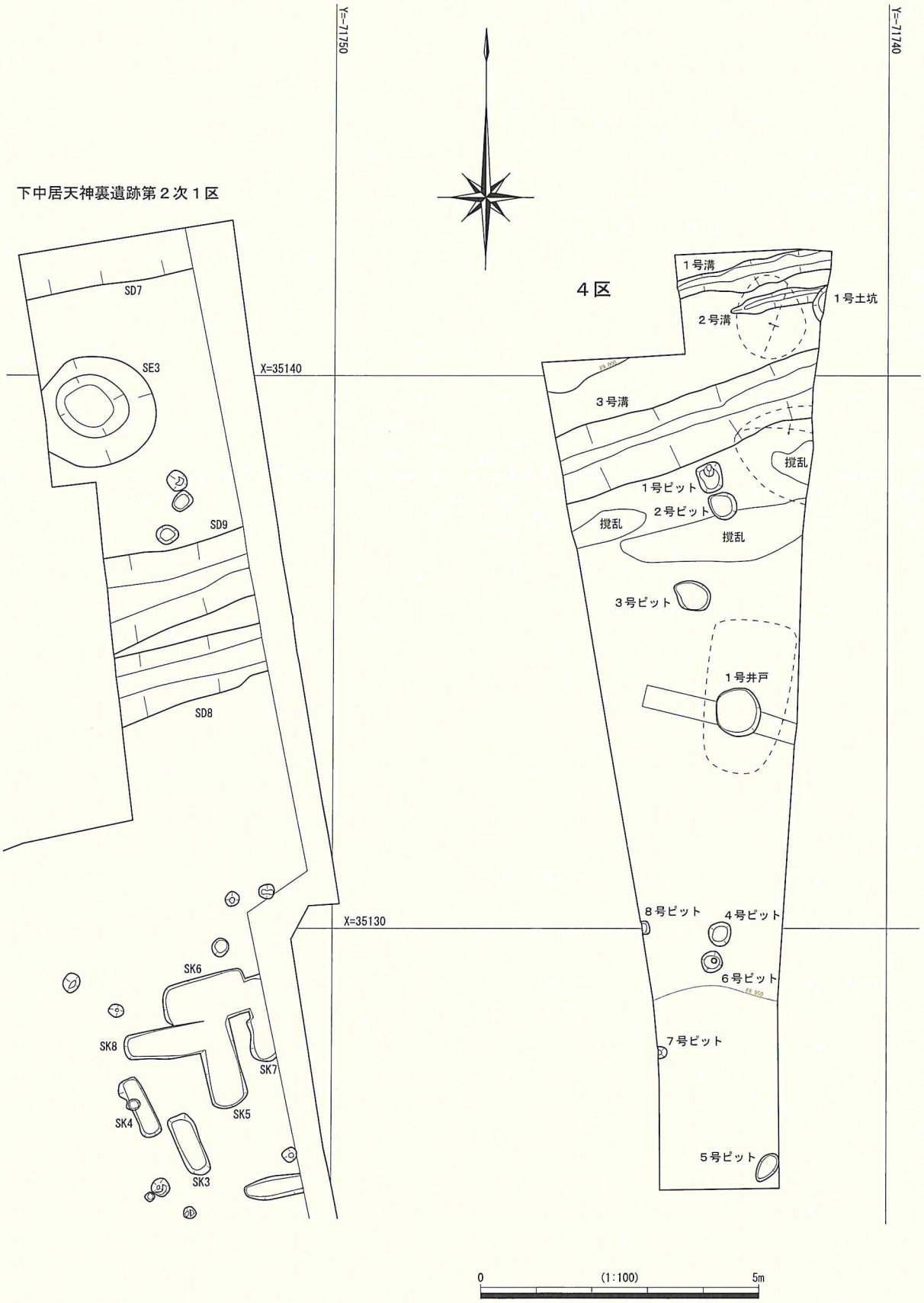
平面形は楕円形を呈し、長軸0.57ｍ、短軸0.33ｍ、検出面からの深さ８cmである。覆土は砂粒を含む褐灰色粘質土である。出土遺物や明確な軽石粒がなく、遺構の所属時期は不明である。

６号ピット（第９図）

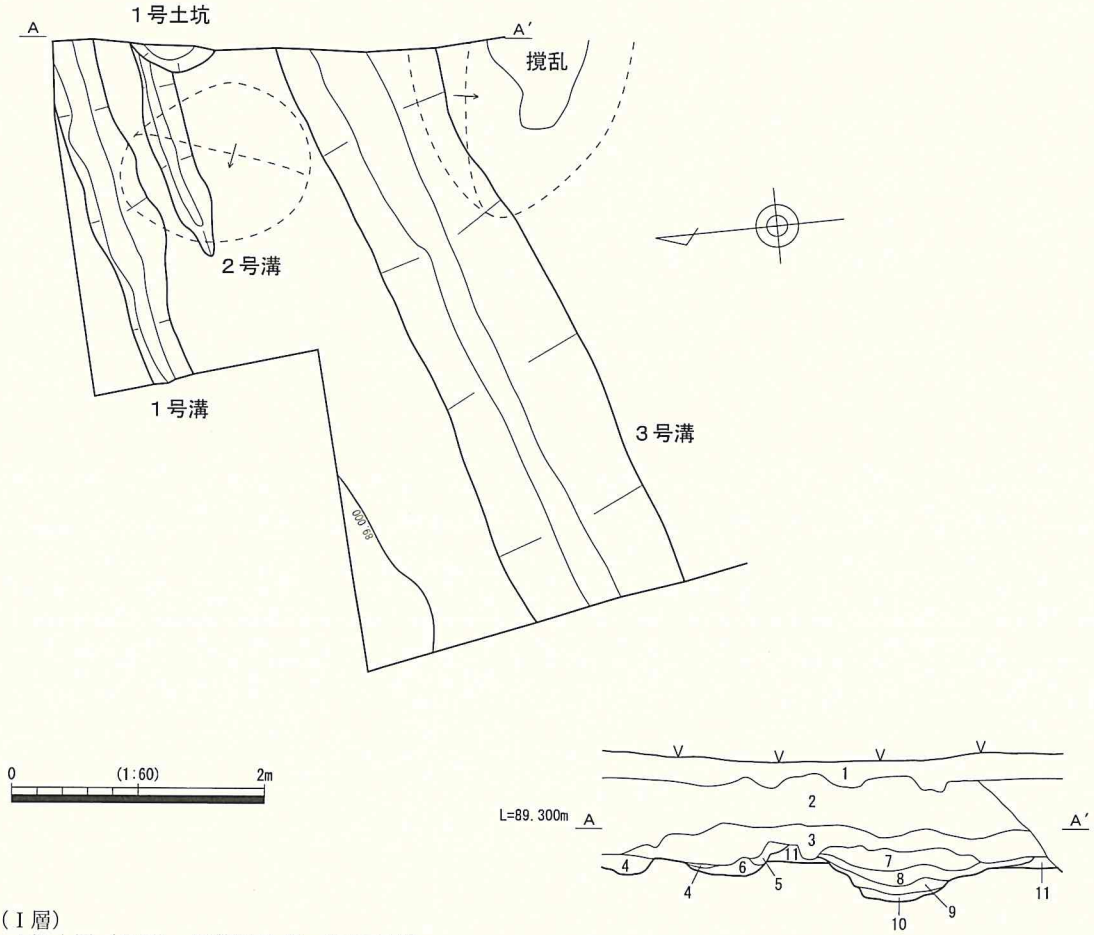
平面形は円形を呈し、直径0.4ｍ、検出面からの深さ35cmである。柱抜取痕が確認でき、該当部分の覆土は砂粒となっており、その周囲に黄色地山土ブロックを多量に含むしまりの強い褐灰色土が埋填されている。出土遺物や明確な軽石粒がなく、遺構の所属時期は不明である。７・８号ピットと覆土の状況が類似しており、同一の構造物を構成する柱穴である可能性がある。

７号ピット（第９図）

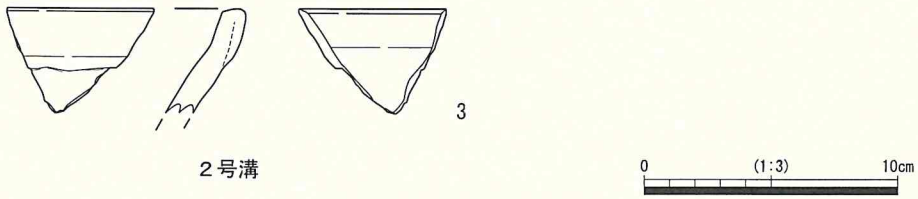
平面形は円形を呈し、長軸検出長0.15ｍ、短軸0.21ｍ、検出面からの深さ22cmである。調査区壁の観察によると、黒色土層（第Ⅹ層）より上から掘削されており、Ａｓ－Ａ混土層（第Ⅱ層）によって削平されている。黒色土層上面からの深さは42cmである。柱抜取痕が確認でき、該当部分の覆土は砂粒となっており、その周囲に黄色地山土ブロックを多量に含むしまりの強い褐灰色土が埋填されている。出土遺物や明確な軽石粒がなく、遺構の所属時期は不明である。６・８号ピットと覆土の状況が類似しており、同


下中居天神裏遺跡第２次１区
Y=-71750
Y=-71740
X=35140
X=35130
SD7
SE3
SD9
SD8
SK6
SK8
SK7
SK5
SK4
SK3
４区
１号溝
１号土坑
２号溝
３号溝
撹乱
１号ピット
２号ピット
撹乱
撹乱
３号ピット
１号井戸
８号ピット
４号ピット
６号ピット
７号ピット
５号ピット
0
(1:100)
5m

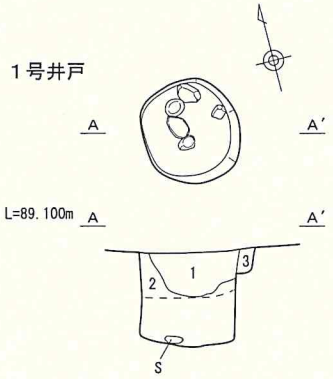
第７図　４区平面図



1　表土（Ⅰ層）
2　Ａｓ－Ａ混土層（Ⅱ層）　灰黄褐色（Hue10YR 5/2）
　　しまり・粘性やや弱い。砂質土。Ａ軽石粒（φ0.2～0.5mm）多量。
3　Ａｓ－Ａ混土層（Ⅱ層）　灰黄褐色（Hue10YR 6/2）
　　しまりやや強く、粘性やや弱い。砂混じりの粘質土。Ａ軽石粒（φ0.1～0.3mm）やや多量。
4　褐灰色（Hue10YR 5/2）
　しまりやや弱く、粘性やや強い。粘質土。黄色粒・Ａ軽石粒ごく少量。（１・２号溝覆土）
5　褐灰色（Hue10YR 4/1）
　しまりやや強く、粘性やや弱い。黒色土ブロック多量。（１号土坑覆土）
6　黒褐色（Hue10YR 3/1）
　しまり・粘性弱い。砂層。小礫ごく少量。（１号土坑覆土）
7　褐灰色（Hue10YR 4/1）
　しまり・粘性やや強い。粘質土。白色粒多量。黄色粒やや多量。
8　灰黄色（Hue2.5Y 6/2）
　しまりやや弱く、粘性やや強い。粘質土。黒色土ブロック少量。白色粒やや多量。
9　黒褐色（Hue10YR 3/1）
　しまり・粘性やや強い。砂混じりの粘質土。白・黄色粒やや少量。
10　黒色（Hue10YR 2/1）
　しまり・粘性やや強い。粘質土。砂混じりの粘質土。地山土ブロック少量。
11　黒褐色（Hue10YR3/2）
　しまり・粘性やや強い。粘質土。地山土ブロック・黒色土ブロックの混土。倒木痕。

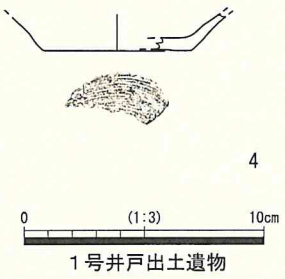


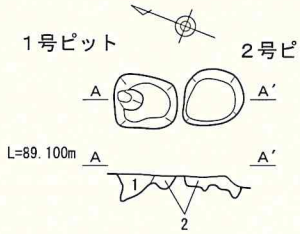
第８図　４区１～３号溝、１号土坑平面図・断面図・出土遺物



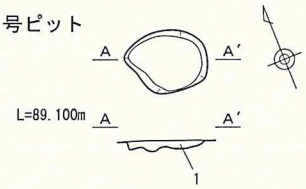
1　褐灰色（Hue10YR 6/1）
　しまり弱く、粘性やや強い。
　砂混じりの粘質土。砂粒多量。
2　黒褐色（Hue10YR 3/1）
　しまり弱く、粘性やや強い。
　砂混じりの粘質土。砂粒多量。
3　黒褐色（Hue10YR 3/1）
　しまり弱く、粘性やや強い。
　砂混じりの粘質土。地山ブロック少量。

※破線以下は崩落により分層できず。
　覆土２層に灰色土ブロックが混入した土が堆積。

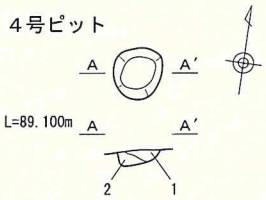




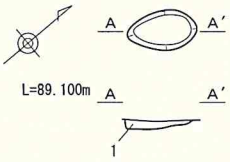
1　褐灰色（Hue10YR 4/1）
　しまりやや弱く、粘性やや強い。
　砂混じりの粘質土。地山土粒やや多量。
2　褐灰色（Hue10YR 5/1）
　しまりやや強く、粘性やや弱い。
　地山土ブロックやや少量。



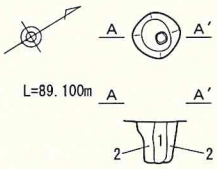
1　黒褐色（Hue10YR 3/1）
　しまり・粘性やや強い。
　シルト混じりの粘質土。
　地山土粒多量。



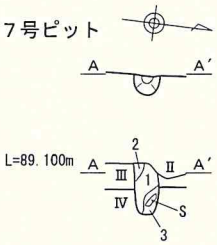
1　黒褐色（Hue10YR 3/1）
　しまりやや弱く、粘性やや強い。粘質土。
　地山土ブロック・地山土粒多量。
2　灰黄褐色（Hue10YR 5/2）
　しまり弱く、粘性強い。粘質。
　地山土ブロックごく多量。小石ごく少量。



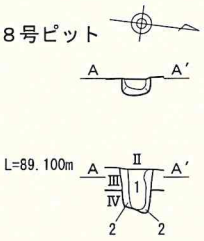
1　褐灰色（Hue10YR 6/1）
　しまり・粘性やや強い。砂混じりの粘質土。
　地山土ブロック少量。橙色粒やや少量。



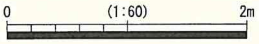
1　暗緑灰色（Hue7.5GY 4/1）
　しまり・粘性なし。砂層。柱抜取痕。
2　褐灰色（Hue10YR 4/1）
　しまり強く、粘性やや弱い。砂混じりの土。地山土ブロック多量。



1　暗緑灰色（Hue7.5GY 4/1）
　しまり・粘性なし。砂層。柱抜取痕。
2　褐灰色（Hue10YR 5/1）
　しまり強く、粘性弱い。砂混じりの土。
　灰色土ブロックやや多量。
3　褐灰色（Hue10YR 4/1）
　しまり・粘性やや弱い。砂質土。
　灰・黄色土ブロック少量。



1　暗緑灰色（Hue7.5GY 4/1）
　しまり・粘性なし。砂層。柱抜取痕。
2　褐灰色（Hue10YR 4/1）
　しまり強く、粘性やや弱い。砂混じりの土。地山土ブロック多量。



第９図　４区１号井戸、１～８号ピット平面図・断面図・出土遺物

一の構造物を構成する柱穴である可能性がある。

８号ピット（第９図）

平面形は隅丸方形を呈し、検出長 0.13 m、幅 0.24 m、検出面からの深さ 20cmである。調査区壁の観察によると、７号ピットと同様に黒色土層（第Ｘ層）より上から掘削されており、Ａｓ－Ａ混土層（第Ⅱ層）によって削平されている。黒色土層上面からの深さは 38cm である。柱抜取痕が確認でき、該当部分の覆土は砂粒となっており、その周囲に黄色地山土ブロックを多量に含むしまりの強い褐灰色土が埋填されている。出土遺物や明確な軽石粒がなく、遺構の所属時期は不明である。６・７号ピットと覆土の状況が類似しており、同一の構造物を構成する柱穴である可能性がある。

（３）５区の発掘調査成果

５区では、過年度の調査で確認されていた古墳時代前期の溝の続きを検出した。この他に、中近世に所属すると思われる溝が１条確認された。

１号溝（第 10 図）

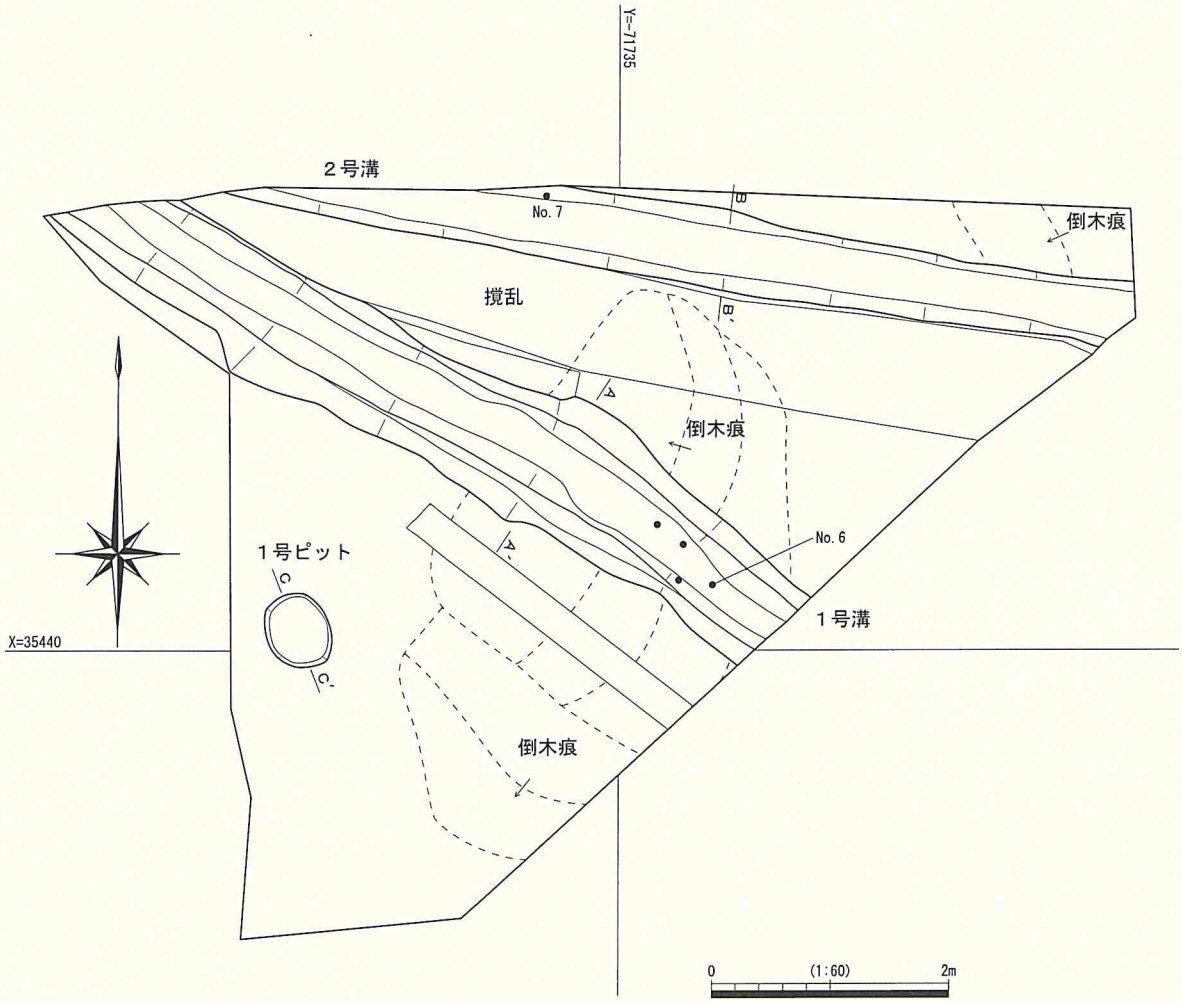
北西－南東方向に開削されており、軸方向はＮ－ 57°－Ｗである。検出長 6.8 m、上幅 1.2 m、基底幅 0.3 m、検出面からの深さ 66cm である。覆土は砂粒を含む褐灰色シルト質土、最下層は黄色地山土を多量に含む黒褐色粘質土である。出土遺物は土師器壺・Ｓ字口縁甕、縄文土器片である。出土遺物から遺構の所属時期は古墳時代前期と考えられる。この１号溝は過年度調査区で確認された溝の続きにあたり、上中居前屋敷遺跡１区の１号溝と同一の遺構である。土層断面の観察によると、溝がある程度埋没した後に南西側に同方向の溝が切り直されているようであり、溝の中央付近でその痕跡である段差が確認されている。

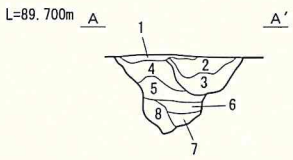
２号溝（第 10 図）

東西方向に開削されており、軸方向はＮ－ 80°－Ｗである。検出長 7.5 m、上幅 0.7 m、基底幅 0.4 m、検出面からの深さ 23cmである。覆土は上層が軽石粒（Ａｓ－ＡもしくはＡｓ－Ｂ）を含む褐灰色シルト質土、下層が褐灰色粘質土である。出土遺物は軟質陶器片口鉢、土師器片である。覆土の状況および出土遺物から、遺構の所属時期は中近世と考えられる。

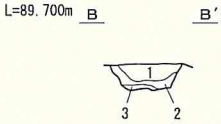
１号ピット（第 10 図）

平面形は楕円形を呈し、長軸 0.65 m、短軸 0.55 m、検出面からの深さ 13cmである。覆土は砂粒を含む黒褐色土である。出土遺物や明確な軽石粒がなく、遺構の所属時期は不明である。

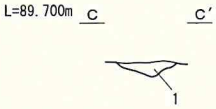




1　褐灰色（Hue10YR 5/1）
　しまりやや強く、粘性弱い。シルト質土。砂粒をブロック状に含む。
2　褐灰色（Hue10YR 6/1）
　しまり弱く、粘性やや弱い。砂混じりのシルト質土。砂粒の混入ごく多量。
3　褐灰色（Hue10YR 6/1）
　しまりやや強く、粘性やや弱い。砂粒の混入やや多量。地山土ブロックごく少量。
4　褐灰色（Hue10YR 6/1）
　しまりやや弱く、粘性やや強い。粘土混じりのシルト質土。斑点状に酸化。
5　褐灰色（Hue10YR 5/1）
　しまり・粘性やや強い。シルト混じりの粘質土。地山土ブロックごく少量。
6　褐灰色（Hue10YR 4/1）
　しまりやや弱く、粘性強い。砂混じりの粘質土。白色粒やや少量。黄色粒少量。
7　黒褐色（Hue10YR 3/1）
　しまり・粘性強い。粘質土。地山土ブロックごく多量。
8　褐灰色（Hue10YR 6/1）
　しまりやや強く、粘性強い。粘質土。砂粒・地山土ブロック混入。白色粒やや多量。

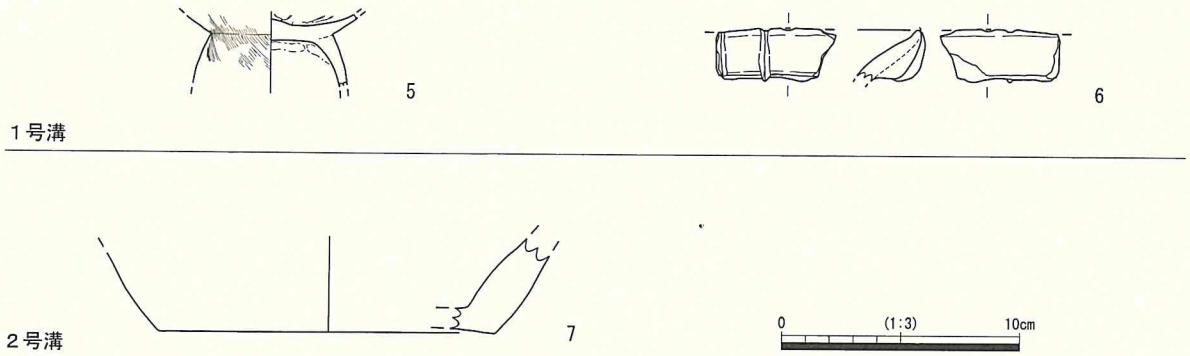


1　褐灰色（Hue10YR 6/1）
　しまり・粘性弱い。シルト質土。地山土・軽石粒ごく少量。
2　褐灰色（Hue10YR 4/1）
　しまり・粘性やや強い。粘質土。地山土粒少量。白色粒やや少量。
3　褐灰色（Hue10YR 4/1）
　しまりやや弱く、粘性やや強い。地山土ブロックやや多量。



1　黒褐色（Hue10YR 3/1）
　しまりやや強く、粘性やや弱い。
　砂粒の混入あり。地山土ブロックやや少量。

第10図　５区平面図・断面図



第 11 図　５区出土遺物

第５表　出土遺物観察表

番号	図版	出土地	器種	法量（cm）			調整・施文		色調	胎土・石材	残存	備考
				口径	底径	器高	外面	内面				
1	第６図 PL.4	３区 Ⅵ層下	須恵器 坏	14.5	7.0	3.7	ロクロナデ	ロクロナデ	灰白色 HueN8/	白色粒、角閃石、小礫	1/2	摩耗顕著 回転篦切離しか
2	第６図 PL.4	３区 Ⅵ層下	土師器 甕	8.4	－	(5.5)	口縁ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁ヨコナデ、胴部ヘラナデ・ユビオサエ	橙色 Hue7.5YR6/6	白・褐色粒	1/4	摩耗顕著
3	第８図 PL.4	４区 ２号溝	軟質陶器 内耳鍋	－	－	(4.1)	ヨコナデ	ヨコナデ	黒褐色 Hue10YR3/1	石英、白色粒	破片	
4	第９図 PL.4	４区 １号井戸	土師器 かわらけ	－	(6.0)	(2.0)	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙色 Hue7.5YR6/4	白・黒色粒、小礫	1/5	
5	第11図 PL.4	５区 １号溝	土師器 Ｓ字甕	－	－	(2.8)	ナナメハケ	胴部ヘラナデ、脚部ユビオサエ	浅黄橙色 Hue10YR8/4	白・褐色粒、小礫	3/4	
6	第11図 PL.4	５区 １号溝	土師器 壺	－	－	(2.2)	ヨコナデ	ヨコナデ	黄橙色 Hue10Y7R8/6	白・灰・褐色粒	破片	摩耗顕著 縦方向の浮文×２
7	第11図 PL.4	５区 ２号溝	陶器 鉢	－	14.0	(4.0)	ヘラナデ	ナデ	灰色 HueN4/	白・黒色粒	1/6	

第５章　まとめ

今回の調査は高前幹線事業のうち、高崎競馬場通りと国道17号線を結ぶ区間における最後の発掘調査であった。検出された主な遺構は古墳時代の溝１条、Ｂ下水田、中近世の溝５条・井戸１基である。平成19年度から継続して行われた発掘調査によって蓄積された成果は、当該地域における古墳時代から近世にかけての土地利用状況を明らかにする重要な資料となった。そこで本章では、該当区間全体の発掘調査成果を概観し、若干の考察をもってまとめとしたい。

第１節　遺跡の全容

本事業による発掘調査は、幅約28ｍ、南北長約500ｍにおよぶ範囲が対象となった。４章までに報告したように、調査対象地は北西―南東方向の微高地南端部から南側の低地に移行するエリアとなっており、地形の変化とともに土地利用状況も変化している様子が明確に見てとれる。調査地北部の微高地上では古墳時代の遺構群および中世の寺院関連遺構群、微高地縁辺部となる調査地中央部では中近世の城館跡である下中居新井屋敷関連の遺構群、調査地南部の低地域にはＢ下水田が展開している（第12図参照）。

第２節　古墳時代の遺構群

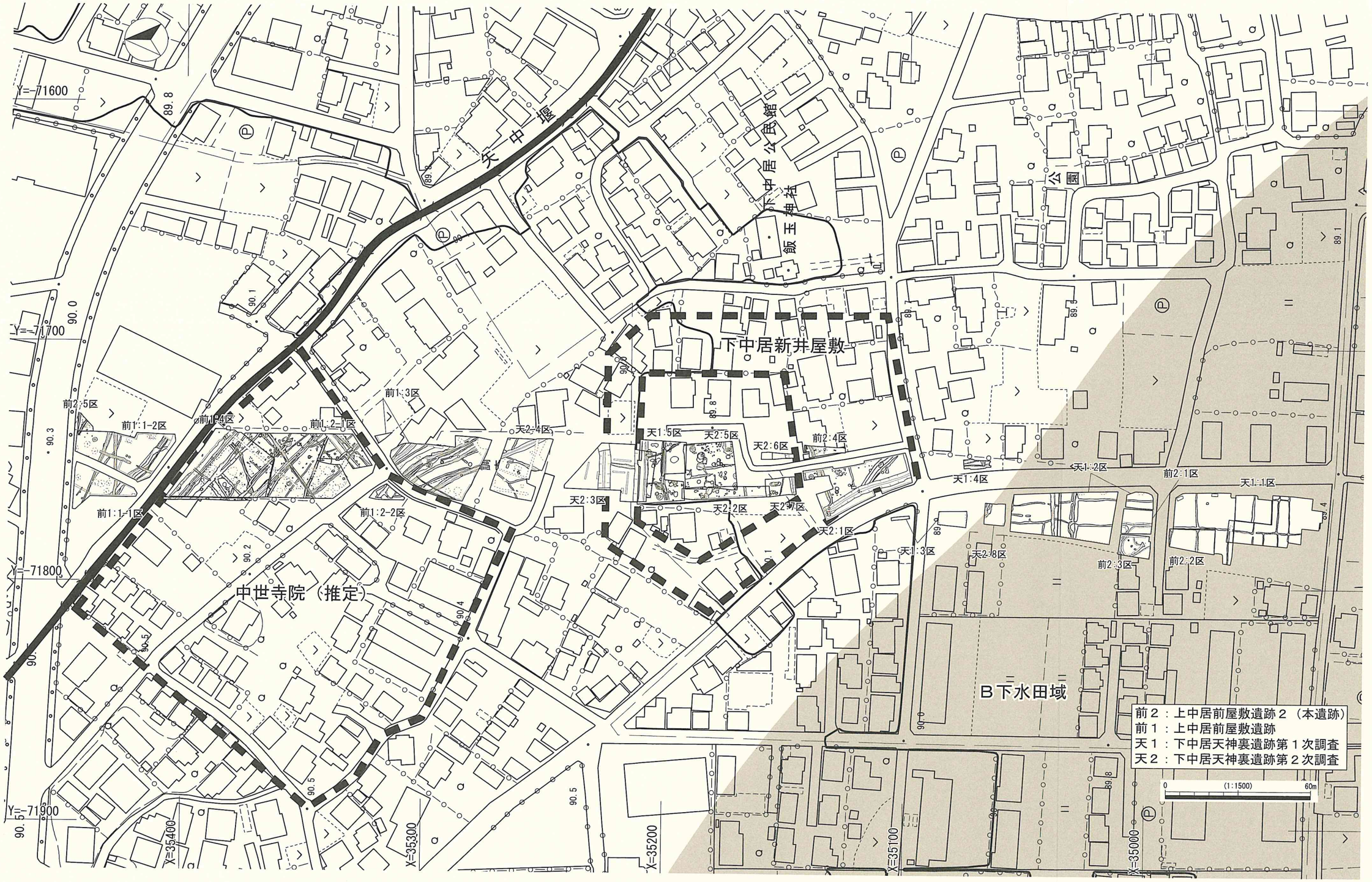
高前幹線関連遺跡において、古墳時代に該当する遺構はほとんどが溝であり、特に北部に集中して見られる。いずれも北西から南東に向かって流下しており、微高地の傾斜方向と合致する。所属時期は前期が最も古く、少数ながら中期～後期のものもみられ、中にはＨｒ－ＦＡ由来の洪水層によって埋没したと思われる例もある。これらの溝群の分布状況を詳細に見ると、最北端にあたる上中居前屋敷遺跡１－１・２区と、約100ｍ南方の上中居前屋敷遺跡３区に偏在する傾向がみられる。両調査区の中間は中世寺院エリアに該当し、古墳時代と思われる溝も確認できるものの北西―南東方向の溝群とは軸方向が異なり、密度も非常に希薄である。基本土層を比較してみると、古墳時代の溝群が集中する２箇所に比べてその中間にあたる中世寺院エリアの黄色地山土の検出レベルがやや高くなっている。おそらく微高地上でもより高位となる部分が矢中堰南側あたりに存在し、その面は北西―南東方向にのびていたと考えられる。古墳時代の溝群は、その南北にあたるやや低い部分に開削されていたことがうかがえる（第13図参照）。

本遺跡群においては、竪穴住居跡など集落関連の遺構は検出されなかったが、留意すべき点として北端部のみ黒色土中に古墳時代前期の土器（一部縄文中期の土器）が多数包含されているということが挙げられる。特に上中居前屋敷遺跡１－１区の黒色土中からは完形の壺などが複数出土している。このように黒色土中に古墳時代の土器類が包含されるのは、上中居前屋敷遺跡１－１区から４区の11号溝周辺までであり、11号溝以南の黒色土中からは遺物の出土はほとんど確認できない。遺構の認定は不可能であったものの、当該エリアが古墳時代前期頃から活動領域であったことは想定してよいであろう。

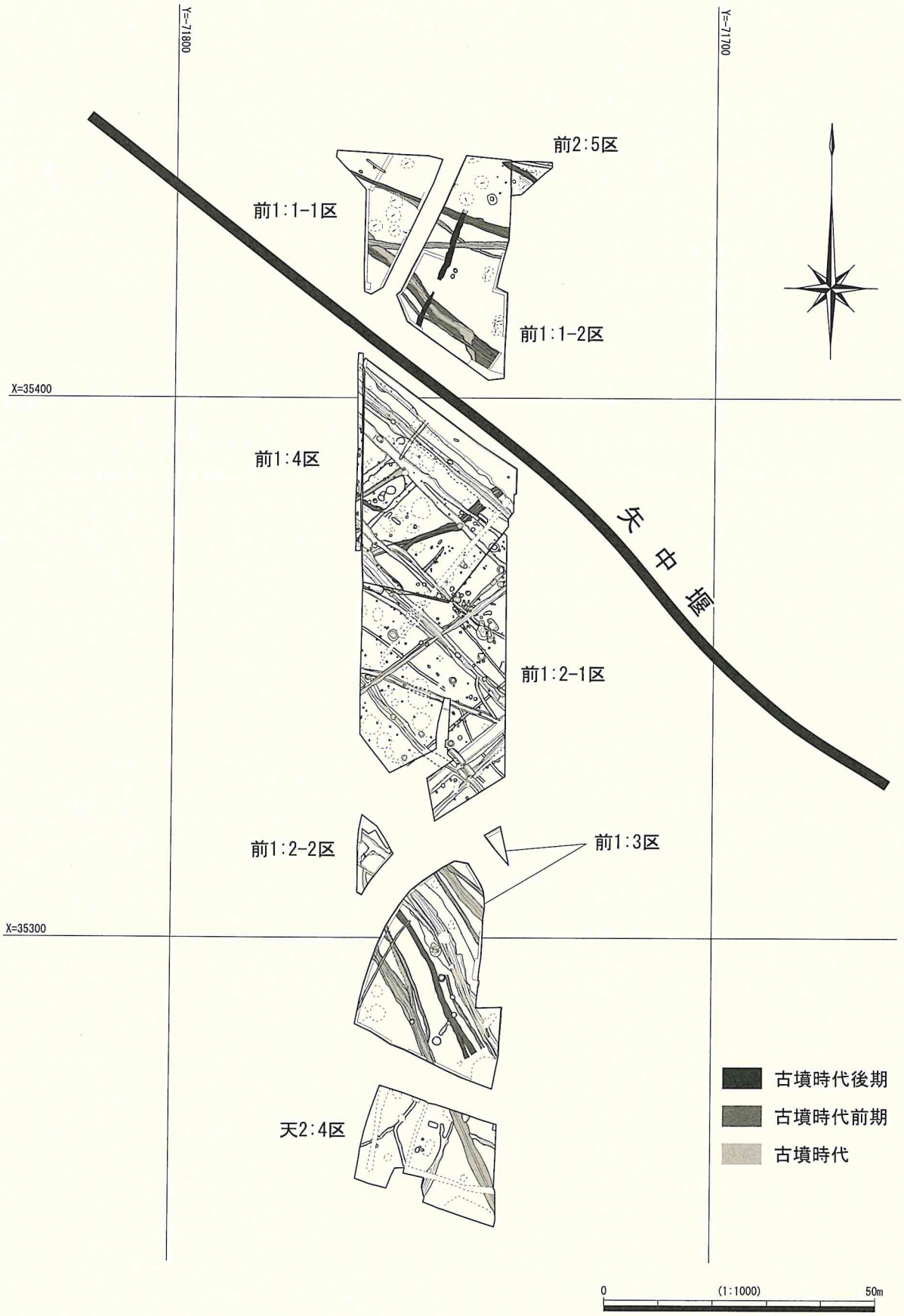
第３節　Ｂ下水田と条里制地割

続く奈良・平安時代に関しては、本遺跡群中からは集落の痕跡が見出せない。しかしながら下中居天神裏遺跡を中心とする低地域では、Ｂ下水田が広域にわたって検出されており、下中居天神裏遺跡２次８区以南は全て水田域である。

特筆されるのは水路を有する大畦畔の存在であり、先の同２次８区と同１次２区において確認されている。２次８区で検出された大畦畔は北西―南東方向を軸としており、畦畔の北東側に水路が併設されている。地理条件と遺構分布状況を考えると、おそらくこの畦畔が微高地南方に広がるＢ下水田の北限を示すものと思われる。１次８区で検出された大畦畔は東西方向を軸としており、２条の畦畔が並走し、その間が水路状となっている。この大畦畔は、後に詳述するが条里制地割に則って築造されたものである。



第 12 図　高前幹線関連遺跡全体図



第 13 図　古墳時代の遺構分布状況

本遺跡群の南方に分布する遺跡の状況を見てみると、下之城遺跡群や下之城条里遺構、下中居条里Ⅲ遺跡においてもＢ下水田の展開が認められ、いずれの遺跡においても水路が併設された大畦畔が検出されている。特に下中居条里Ⅲ遺跡では、東西・南北方向を主軸とした大畦畔及び水路が築造された様子が顕著に見て取れる（第 14 図参照）。これらの大畦畔を基準として、１町（約 109 m）を基調としたグリッドを遺構分布図上に配すると、先述した下中居天神裏２次８区の大畦畔がその東西ラインとほぼ一致することがわかる。

第 14 図の範囲からは除外されているが、Ｂ下水田域はさらに南方にも展開しており、下之城村前遺跡（３・７次）や下之城仲沖遺跡（３・４次）などでも確認されており、同様に水路を伴う大畦畔が検出されている。先ほど想定した条里制地割のメッシュをこれらのエリアまで拡張したところ、若干のずれは生じるものの水路を伴う大畦畔のほとんどが条里制地割のラインとほぼ一致することが確認された（大野 2013 下之城村前遺跡７参照）。これらのことから、少なくとも平安時代末頃には、計画的かつ大規模に条里制が施行されていたことがうかがえる。

第４節　中世の寺院関連遺構

高前幹線関連遺跡の中でも、中世の寺院に関連すると思われる溝・井戸などが発見されたことは重要な成果である。これらの遺構分布エリアは上中居前屋敷遺跡２・４区に限定されており、矢中堰の南に接するように築造されていたと考えられる（第 15 図参照）。

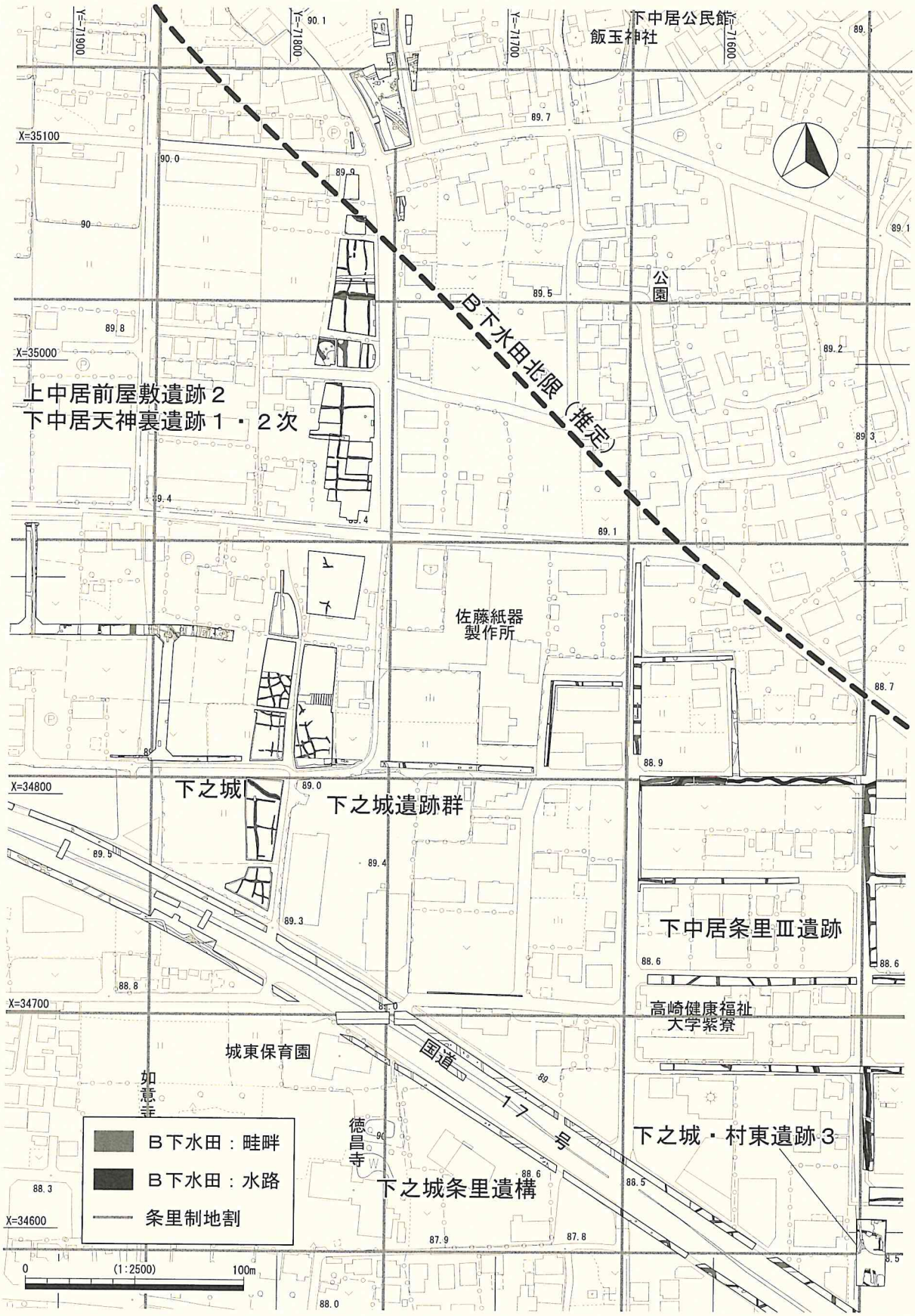
遺構の検出状況を見ると、矢中堰同様に北西―南東方向を主軸とした溝（堀）が複数開削され、その範囲内に井戸や礎石を有する柱穴群、土坑墓、ピット群などが分布している。溝群のうち最北東に位置する 44 号溝は、幅５m以上の大型の溝であり、寺院域北東端の堀あるいは現矢中堰の前身にあたる水路であったと考えられる。これよりやや規模は劣るが、同方向の溝が複数条認められ、前述の 44 号溝の隣には薬研掘りの溝が開削されている。しかしながらこれらに直交する軸方向の溝はいずれも浅く、幅も狭いものである。

井戸も複数確認されており、中には溝の埋没後に掘り直されたものもある。これらのうち２基において、覆土上層に瓦が一括廃棄された状況が確認されており、井戸の廃絶後ある程度埋没した段階で瓦を廃棄したものと思われる。

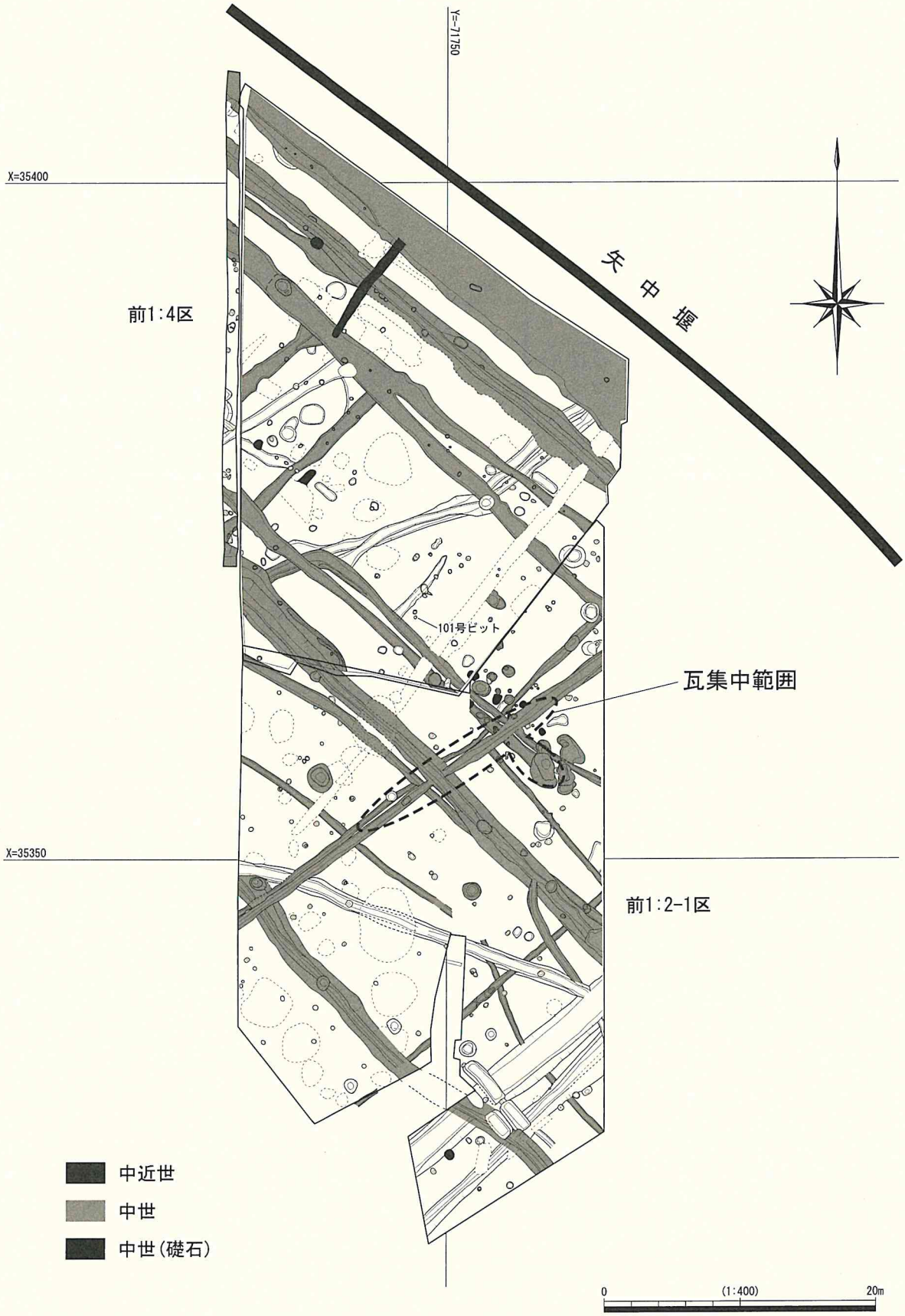
礎石を有する柱穴群は上中居前屋敷遺跡４区南東部から２－１区北東部にかけて確認されている。いずれも底面に根石と思われる 20cm前後の亜円礫が複数敷かれている状況であった。また、４区では検出レベルで扁平礫が検出されており（101 号ピット）、一連の遺構の名残である可能性がある。これらの礎石を有する柱穴の並びからは建物を想定することはできなかったが、14・15 号溝に沿うように展開しているようであり、先述の扁平礫もこの並びの延長上に位置している。

土坑墓とおもわれる遺構は４区北西部に点在しており、いずれも骨・歯の出土は認められないが、銅銭が複数枚供えられていた。特に 44・45 号土坑では長辺の中央付近に３枚ずつ、計６枚の銅銭が配されるという出土状況が注目される。この他に 44 号溝の北西部底面において五輪塔や瓦片がまとまって出土しており、溝の南側に配されたものが崩落した痕跡と考えられる。

これらの遺構群から出土した遺物は、主に瓦・陶磁器・内耳土器・銅銭などであり、龍泉窯系の青磁碗など稀少性の高いものも見られる。おおむね 14 世紀後半～ 15 世紀を中心とした時期が考えられる。特に瓦の出土が目を引き、溝や井戸などの覆土中に多数混入している。分布状況をみると、20 号土坑および 13 号溝からの出土が特に多い傾向がある。このエリアは先述の礎石を有する柱穴が多数分布する場所でもあり、この付近に礎石を有する瓦葺きの構造物が存在した可能性も想定しておきたい。銅銭については、永楽通宝・開元通宝・元祐通宝などがみられ、特に土坑墓出土のものについては永楽通宝の比率がやや高い。北関東では中世後期に永楽通宝などの明銭が六道銭の組成に加わるとされており、土坑墓の時期は 15 ～



第 14 図　Ｂ下水田および条里制地割



第 15 図　中世寺院関連の遺構

16 世紀頃と推定される（手島 2014）。

現在のところ、北東の大型溝以外に寺院を囲むと思われる堀は確認されていない。そのため寺院域の特定は困難であるが、遺構の分布状況及び現況の地割をもとに第 12 図中に寺院推定域を仮定している。

第５節　中近世の屋敷跡（下中居新井屋敷）

本遺跡群の南方にあたる微高地縁辺部、主に下中居天神裏遺跡において、中近世の屋敷跡である下中居新井屋敷の遺構群が確認された。下中居新井屋敷は、16 世紀頃に新井氏によって築造された囲郭式の屋敷であり、和田氏騎馬衆の一人である新井大学が居住していたと考えられている。本格・外郭から成り、いずれも平面形は不整形な五角形を呈するが、これは地形の制約によるものと考えられる（高崎市 1996）。

本遺跡群において検出された屋敷関連遺構と山崎一氏によって製作された絵図から復元した堀のラインを照らし合わせると、おおむね同位置に大型の堀が検出されている（第 16 図参照）。天神裏２次１・３区において外郭を囲う堀が、天神裏１次５区および２次６・７区において内郭を囲う堀が確認されている。屋敷内には、これらの堀の他に、ほぼ同時期と考えられる東西・南北方向の溝や井戸、ピット群などが多数分布している。遺構群からの遺物の出土は極めて少ないが、近世を中心とした陶磁器類が出土しており、16 世紀頃に築造された後も近世まで使用され、堀の一部は現代に至るまで残存していたと考えられる。

第６節　今後の課題

前節までの高前幹線関連遺跡の調査成果をまとめ、土地利用状況を通時的に見ていく。まず古墳時代前期頃に本格的な活動を開始し、調査区北部の微高地エリアにおいて水路の開削を行っている。古墳時代中期・後期の溝も確認されてはいるが数は少なく、活動拠点からは外れると思われ、奈良時代に該当する遺構は確認されていない。空白期を経て平安時代末頃になると、調査地南部の低地エリアに条里制地割に則った広域にわたる水田経営が行われる。中世になると、14 世紀後半～ 15 世紀頃に矢中堰南側に寺院が、16 世紀頃に微高地縁辺部に下中居新井屋敷が築造される。中世寺院に関しては、中世あるいは近世のうちに廃絶してしまった可能性が高いが、新井屋敷に関しては現代に至るまで堀の残存が確認されている。

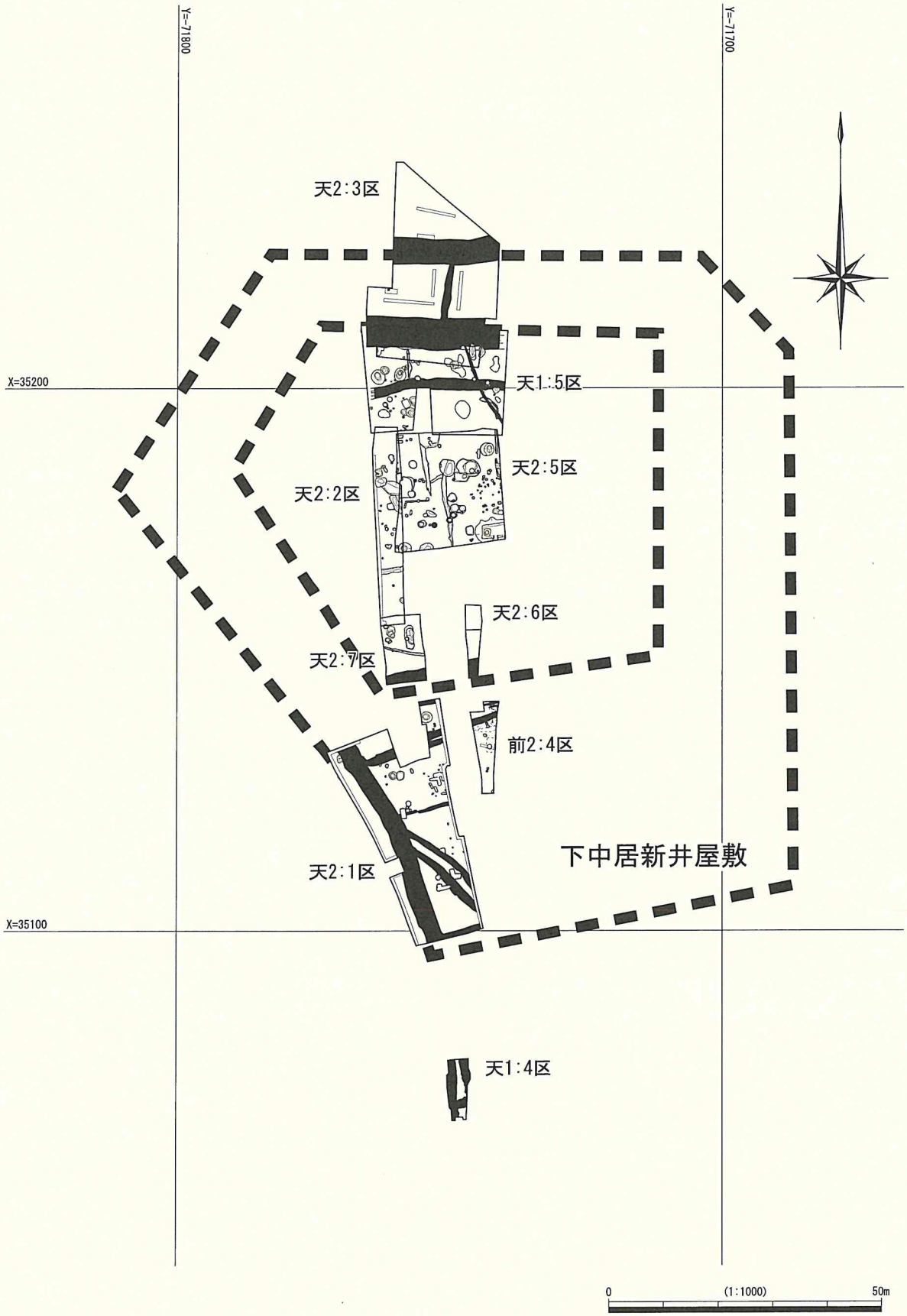
以上のように、本遺跡群の発掘調査成果によって、地理的条件に応じた土地利用の状況、そして土地利用状況の変遷を確認することができた。しかしながら次のように疑問点・問題点も残されている。

・古墳時代中期から平安時代にかけての空白期の存在
・古墳時代の水路、平安時代の水田に対応する集落の所在
・中世寺院の構造および範囲が不確定

いずれの問題についても、本遺跡の周辺にどのように遺構が展開するのかを注視すべきであり、今後の課題としたい。

〈参考文献〉

黒田晃 2012『下中居天神裏遺跡　第１・２次調査』高崎市文化財調査報告書第 296 集　高崎市教育委員会
高崎市 1996『新編高崎市史』資料編３　中世Ⅰ
手島芙実子 2014『上中居前屋敷遺跡』高崎市文化財調査報告書第 327 集　高崎市教育委員会



第 16 図　下中居新井屋敷関連の遺構

１区畦畔検出状況（北→）

１区畦畔検出状況（東→）

２区畦畔検出状況（南→）

２区畦畔検出状況（北東→）

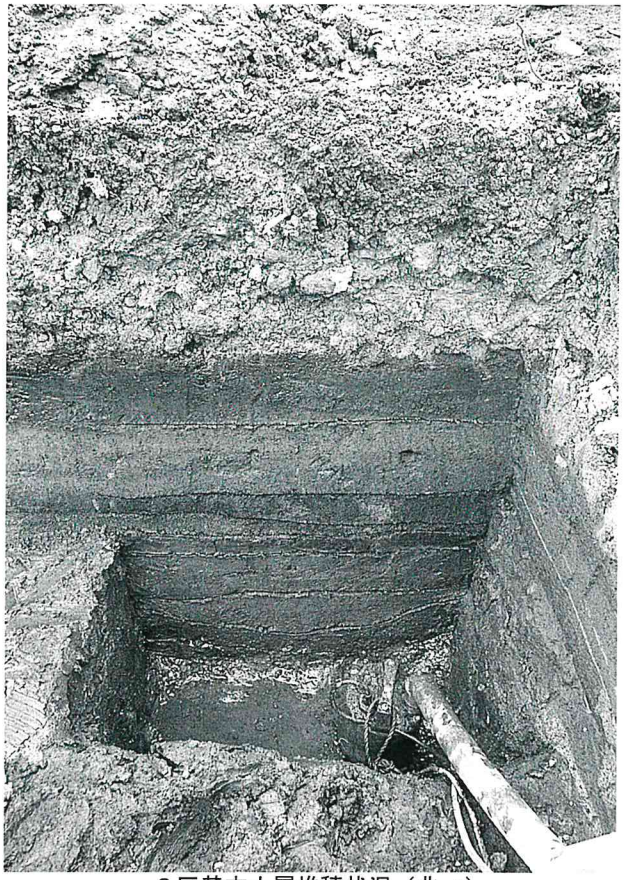
３区Ｂ下水田全景（北東→）

３区１号畦畔検出状況（東→）

３区２号畦畔検出状況（南東→）

３区Ⅵ層下礫・遺物出土状況（南東→）

３区礫下の遺物出土状況（南→）



３区基本土層堆積状況（北→）

４区完掘状況全景（北→）

３区１・２号溝完掘状況（東→）

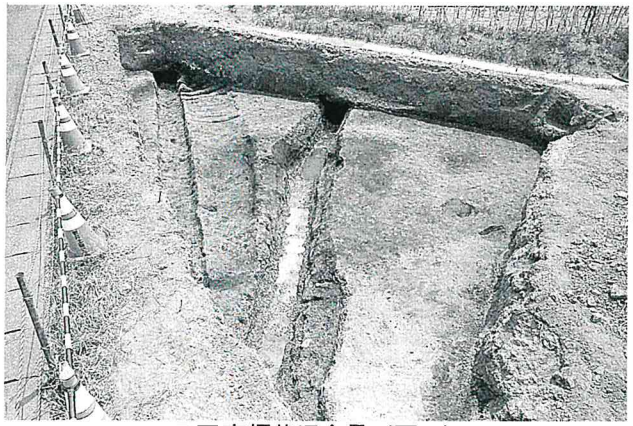
３区１・２号溝、１号土坑完掘状況（西→）

４区３号溝完掘状況（西→）

４区１号井戸礫検出状況（南→）

４区１号井戸完掘状況（南→）

５区完掘状況全景（東→）



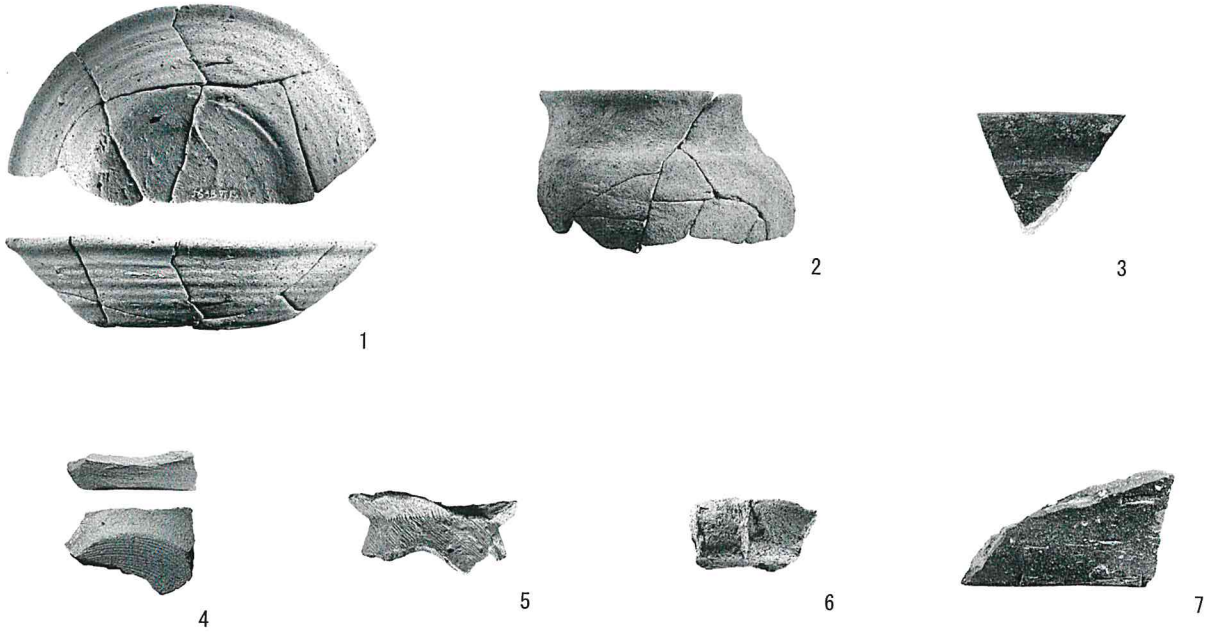
５区完掘状況全景（西→）

５区１号溝完掘状況（南東→）

１号溝土層堆積状況（北西→）

１号ピット完掘状況（南西→）

２号溝完掘状況（東→）



出土遺物

発掘調査報告書抄録

ふりがな	かみなかいまえやしきいせき２
書名	上中居前屋敷遺跡２
副書名	高前幹線事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第 345 集
編著者名	大野義人
編集機関	高崎市教育委員会
所在地	〒 370 － 8501　群馬県高崎市高松町 35 番地の１
発行年月日	平成 27（2015）年３月 31 日

ふりがな 所在地	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
かみなかいまえやしき 上中居前屋敷 いせき 遺跡２	たかさきしかみなかいまち 高崎市上中居町 あざまえやしき しもなかい 字前屋敷、下中居 まちあざてんじんうら ひらにし 町字天神裏・村西	10202	447	36° 19′00	139° 02′04	20100125 ～ 20100212	246㎡	道路築造
			563			20140225 ～ 20140303	115㎡	
			595			20140428 ～ 20140523	267㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上中居前屋敷 遺跡２	集落 生産	古墳	溝	土師器	
		平安	Ｂ下水田	須恵器、土師器	
		中世	井戸、溝	軟質陶器、かわらけ	
		近世	溝	陶器	

高崎市文化財調査報告書第345集

上中居前屋敷遺跡２

―高前幹線事業に伴う発掘調査―

印刷日　平成27年３月27日
発行日　平成27年３月31日

編　集　高崎市教育委員会　文化財保護課埋蔵文化財係
発　行　高崎市教育委員会
〒370-8501　群馬県高崎市高松町35番地１
電話　027(321)1111

印　刷　上武印刷株式会社